

2014 年度 JICA 横浜 教師海外研修報告書



研修国：タンザニア連合共和国

独立行政法人国際協力機構 横浜国際センター（JICA 横浜）

目次

教師海外研修について

◆ はじめに	2
◆ 教師海外研修とは	3
◆ 教師海外研修の流れ	4
◆ 海外研修国の概要	5
◆ 海外研修の日程	6
◆ 研修参加者氏名	7
◆ 稲村友紀隊員からのレポート	8
◆ 教師海外研修パネル展ポスター	9
◆ 教師海外研修 私の3枚	10

実践授業報告

小学校(2名)

◆ 縄田 英愛(横浜市立中川小学校)	21
「アフリカでみんなでつながり隊！」	
◆ 佐藤 大輔(藤沢市立秋葉台小学校)	30
「世界に目を向け、自分の考えを持とう」	

中学校(2名)

◆ 中村 悠里(横浜市立共進中学校)	38
「国際協力～見て、知って、考える～」	
◆ 小野 恵子(川崎市立川崎中学校)	47
「水は本気でマジだった」	

高校(5名)

◆ 古澤 京子(神奈川県立横浜修悠館高等学校)	56
「きれいな水がもたらす世界—援助の在り方について考えよう—」	
◆ 古屋 唯生(神奈川県立氷取沢高等学校)	64
「産業構造の変化を学び、途上国の経済発展を考える」	
◆ 増山 一光(神奈川県立神奈川総合高等学校)	69
「遠い空の向こうに、タンザニアにて」	
◆ 鶴嶋 麦(川崎市立橘高等学校)	74
「Business Model Plan in Africa」	
◆ 木内 美恵(北杜市立甲陵中学・高等学校)	80
「知ろう、考えよう—日本から世界をく食料・水事情」	

特別支援(1名)

◆ 牧 ちさと(神奈川県立高津養護学校)	85
「KARIBU! TANZANIA!」	

同行者より(研修ファシリテーター、JICA 横浜同行者)

※ 本報告書に記載されている意見は、本研修参加者によるものであり、JICA を代表するものではありません。

はじめに

独立行政法人国際協力機構 横浜国際センター（JICA 横浜）では、国際理解教育や開発教育に熱心に取り組んでいる神奈川県と山梨県の教員の方々を対象に、「教師海外研修」を実施しています。本研修は、教員の方々が開発途上国における国際協力の現場視察や体験等を通じて途上国の現状や日本との関係について考え、国際協力への理解を深め、その経験をそれぞれの教育現場で児童・生徒の皆さんに伝え、広げていただくことを目的としています。

2014年度は、神奈川県と山梨県より10名の先生方にご参加いただき、東アフリカに位置するタンザニアで海外研修を行いました。出発前の国内研修では、タンザニア国概要、海外研修に際しての健康・安全対策、教材作成のためのワークショップなどの講座を実施し、先生方は、帰国後の授業実践も視野に入れながら、積極的に準備に取り組まれました。

海外研修先のタンザニアでは、ザンジバル島を中心にタンザニア第一の都市であるダルエスサラームと地方都市モロゴロで、生活に欠かすことのできない水や電気などに関係するプロジェクトを訪問しました。ここでは日本人専門家や共に働くタンザニア人スタッフに加え現地の住民の話を聞いたり、青年海外協力隊の活動現場の視察を通じて多くのことを吸収しました。また、今回は、日本に研修員として来日した経験のあるタンザニア人家庭にホームステイをする機会にも恵まれ、一般のタンザニア人の生活を体験しました。

帰国後、先生方は事後研修、自主研修などを通じお互いに学びあいつつ、それぞれ工夫をこらし、各学校で生徒の皆さんや同僚の先生方の関心を引くすばらしい授業実践を行いました。そして、「よこはま国際フォーラム 2015」の場でその成果発表として、授業案や素材を紹介し、参加者に国際理解教育・開発教育の実践例を紹介しました。

本報告書は、研修に参加された先生方の、タンザニアで得た学びや経験を活かした授業実践や取り組みが報告されています。学校現場における総合的な学習の時間、国際理解教育活動等の参考にしていただけましたら幸いです。

末筆となりますが、本研修にご参加いただいた教員の皆様に敬意を表するとともに、研修参加者をご推薦くださった学校長の皆様、本研修の実施にあたりご協力をいただきました教育委員会、研修講師・ファシリテーターの皆様、タンザニアでの研修を受け入れてくださった関係者の皆さまに厚く御礼申し上げます。

2015年3月

独立行政法人国際協力機構 横浜国際センター
所長 小幡 俊弘

教師海外研修とは

1. 教師海外研修の目的

本研修は、国際理解教育や開発教育に熱心に取り組んでいる神奈川県と山梨県の教員や教育委員会指導主事等の方々を対象に、実際に開発途上国を訪問することで、開発途上国が置かれている現状や国際協力の現場、開発途上国と日本との関係に対する理解を深め、その成果を、学校現場等での授業実践等を通じて、次代を担う児童・生徒の教育に役立ててもらうことを目的としています。研修参加後は、JICA 国内機関と協力し、教育現場で開発教育を推進する中核となるような人材となってもらうことを期待しています。

2. 研修概要

本研修は、開発途上国の社会・教育事情や開発途上国で行われている様々な国際協力活動の現場視察(海外研修)と、海外研修の前後に行う国内研修(事前／事後)の2つのプログラムから成っています。国内研修(事前)では、海外研修への準備としてワークショップ体験、素材収集の方法・教材研究等を学びます。国内研修(事後)では、他の研修参加者と協働して開発教育の教材づくりに挑戦します。その成果(教材)を駆使しての実践授業を通じて、同じ関心をもつ多くの教員の方々と貴重な経験と成果を共有することを目指します。全ての研修のしめくりとして、実践授業の報告発表会を実施します。

3. 応募資格

神奈川県と山梨県の学校現場で国際理解教育・開発教育に取り組んでいる、または関心を持ち、国内・海外の研修および報告会の全日程に参加可能な教員等で、所属長の推薦が得られる方。

※詳しい応募資格は、毎年4月上旬に各学校に配布する募集要項、もしくはJICA 横浜ウェブサイトをご参照ください。

4. 海外研修期間

約10日間(8月中旬ころに実施)

5. 募集時期

4月初旬～5月初旬

(各学校に募集要項を配布いたします。また、JICA 横浜ホームページでも掲載いたします)

6. 応募方法

所定の応募用紙に必要事項を記入の上、JICA 横浜へ郵送ください。

7. お申し込み・お問い合わせ

JICA 横浜 市民参加協力課「教師海外研修」担当宛

〒231-0001 横浜市中区新港 2-3-1

Tel: 045-663-3220

Fax: 045-663-3265

E-mail: jicayic-kaihatsu@jica.go.jp

教師海外研修の流れ

国内事前研修

- 第1回：2014年6月21日（土）
- 第2回：2014年6月28日（土）
- 第3回：2014年7月19日（土）・20日（日）
- 第4回：2014年8月2日（土）

開発教育指導者セミナー（基礎編）に参加し、開発教育ワークショップの体験をしたり、研修国（タンザニア）の基礎知識と健康/安全管理、教材研究の方法などを学び、海外研修と帰国後の授業実践のための準備を行いました。



海外研修（タンザニア）

- 2014年8月11日（月）
～同年8月21日（木）



国内事後研修

- 2014年9月6日（土）

タンザニアで得た体験、写真、資料などを参加者全員で持ち寄り海外研修の振り返りと、教材作りについて話し合いました。



国内事後研修

- 2014年9月～2015年1月

参加者各自が工夫を凝らし、学校の現場で授業実践を行いました。



国内事後研修

- 2015年1月10日（土）・11日（日）

「開発教育教員セミナー（応用編）」では、開発教育国際理解教育の実践方法について、学びました。



研修報告会（よこはま国際フォーラム 2015）

- 2015年2月8日（日）

タンザニアでの海外研修を再現する形で、研修での気づきや学びを発表し、その後各参加者が実践授業で使った教材等を紹介しながら、ポスターで授業内容を発表しました。



海外研修国の概要

タンザニア連合共和国 (United Republic of Tanzania)



首都:ドドマ(法律上の首都であり、国会議事堂が置かれている。政府官庁が存在するなど、事実上の首都機能を有し、経済面でも中心となっているのはダルエスサラーム)

面積:94.5万平方キロメートル(日本の約2.5倍)

人口:4,622百万人(2011年:世銀)

通貨・為替レート:タンザニア・シリング(1米ドル=1,582タンザニア・シリング、2011年)

民族:スクマ族、マコンデ族、チャガ族、ハヤ族等(約130)

言語:スワヒリ語(国語)、英語(公用語)

宗教:イスラム教(約40%)、キリスト教(約40%)、土着宗教(約20%)

政体:共和制

主要産業:農業(GDPの約25%)、工業(GDPの約21%)、サービス業(GDPの約52%)
(2009年:タンザニア中央銀行)

GNI:243億米ドル(2011年:世銀)

1人当たりのGNI:540米ドル(2011年:世銀)

経済成長率:6.3%(2011年:世銀)

主要貿易品目: (1)輸出 金、製造品、綿、タバコ、コーヒー等
(2)輸入 原油、機械、産業資材等

(2009年:タンザニア中央銀行)

主要貿易相手国:

(1)輸出 スイス、中国、南ア、ケニア、インド

(2)輸入 インド、中国、南ア、アラブ首長国連邦、日本

(2009年:タンザニア中央銀行)

日本の援助実績: (1)有償資金協力 約487億円(2010年度までの累計)

(2)無償資金協力 約1,587億円(2010年度までの累計)

(3)技術協力 約699億円(2010年度までの累計)

(外務省ホームページより)

教師海外研修2014

「タンザニアの人々とつながり、つながる。私たちが感じ、学んだこと」

きょうしかいがいけんしゅう

にっぺい

教師海外研修(タンザニア)日程

1日目

8月12日(火)

タンザニア到着

日本を出発してから1日半。ついに到着！

到着後、JICAタンザニア事務所でのブリーフィング。夜は、JICA事務所の皆さんと会食をして、タンザニア事情について伺うことができました。

2日目

8月13日(水)

ザンジバルに移動、青年海外協力隊員との交流

JICAタンザニア事務所での研修先についての説明を受けた後、ダルエスサラームから船でザンジバル島に移動しました。

夜はザンジバルで活動する青年海外協力隊員の皆さんと懇談し、活動について伺いました。

3日目

8月14日(木)

ムナジモジャ病院訪問・視察(沢谷隊員)、ザンジバル水公社(ZAWA)訪問・視察

午前中は、青年海外協力隊員の沢谷さん(理学療法士)が活動するムナジモジャ病院を訪問し、活動を見学しました。

タンザニアの人々と真摯に向き合う姿勢に感銘を受けました。

午後は、ザンジバル水公社(ZAWA)訪問。井戸、湧水などのプロジェクトサイトを訪問しました。

4日目

8月15日(金)

ザンジバル水公社(ZAWA)サイト視察、ホームステイ体験

午前中は、昨日に引き続き、ZAWAのプロジェクト視察、給水地区を訪問し、水の利用者の家庭では、インタビューをすることができました。

午後からは、いよいよホームステイに！ホームステイ先の各家庭に移動し、それぞれの家庭で1日を過ごしました。

5日目

8月16日(土)

ホームステイ体験

ホームステイ先は、どこも暖かい家庭。近所の子どもたちも一緒に大歓迎してくれました。

2日間かけがえのない時間を過ごすことができました。この出会いに感謝！日本に帰国後もつながっていきたいと思いました。

夜はそれぞれホームステイ先での感想を共有しました。

6日目

8月17日(日)

ダルエスサラームを経由してモロゴロへ移動、マーケット視察

朝早く起きて、ザンジバルから船に乗り、ダルエスサラームを経由して地方都市モロゴロに向かいました。

夕方、モロゴロに到着。青年海外協力隊員の方に市内のマーケットを案内してもらいました。

7日目

8月18日(月)

キラカラ中等学校訪問・視察・交流授業(稲村隊員)

キラカラ中等学校訪問。数学の先生として活動している稲村隊員の授業を見ることができました。

そして、いよいよ準備を重ねてきた交流授業、生徒たちも楽しんでくれたようで、その明るい笑顔に感動しました。

8日目

8月19日(火)

タンザニア電力供給公社(TANESCO)訪問・視察、ティンガティンガ村訪問

午前中は、タンザニア電力供給公社(TANESCO)のプロジェクトサイトを訪問。タンザニアの人を助けているのではなく、

タンザニアの人々が自立できるようにお手伝いをしている、という専門家の方のお話が心に残りました。

午後は、楽しみにしていたティンガティンガ村を訪問。教材や楽器などを購入することができました。

9日目

8月20日(水)

JICAタンザニア事務所報告会、在タンザニア日本大使館表敬訪問、タンザニア出発

JICAタンザニア事務所、そして在タンザニア日本大使館で海外研修で学んだこと、日本に帰国後、活かしていきたいことをそれぞれ報告。

密度の濃い、充実したタンザニアでの9日間でした。

お世話になったタンザニアの皆さん、受け入れていただいた関係者の皆さん、アサンテサーナ！

2014 年度 教師海外研修 参加者氏名

No.	氏名	参加形態	勤務先	教科/学年
1	なわだ はなえ 縄田 英愛	参加者	横浜市立中川小学校	5 学年
2	さとう だいすけ 佐藤 大輔	参加者	藤沢市立秋葉台小学校	5 学年
3	なかむら ゆり 中村 悠里	参加者	横浜市立共進中学校	英語 3 学年
4	おの けいこ 小野 恵子	参加者	川崎市立川崎中学校	英語 3 学年
5	ふるさわ きょうこ 古澤 京子	参加者	神奈川県立横浜修悠館高等学校	英語 3 学年
6	ふるや いお 古屋 唯生	参加者	神奈川県立氷取沢高等学校	地理歴史・公民 3 学年
7	ますやま かずみつ 増山 一光	参加者	神奈川県立神奈川総合産業高等学校	商業
8	つるしま むぎ 鶴嶋 麦	参加者	川崎市立橋高等学校	英語 1・3 学年
9	きうち みえ 木内 美恵	参加者	北杜市立甲陵中学・高等学校	英語 1 学年
10	まき ちさと 牧 ちさと	参加者	神奈川県立高津養護学校	美術 高等部 1 学年
11	あべ りえこ 阿部 理恵子	ファシリテーター	かながわ開発教育センター(K-DEC)	
12	たなか こうへい 田中 浩平	同行者	JICA 横浜市民参加協力課	



タンザニアのモロゴロのキラカラ中等学校で、教師海外研修の一行を受け入れてくださった稲村友紀隊員(職種:数学教育)が訪問の際の様子をJICAタンザニア事務所のウェブサイトで報告してくれました。

モロゴロ州モロゴロ市
キラカラ中等学校赴任中の
稲村友紀(数学教育:宮城県出身)隊員か
らのレポート

派遣期間:2014年1月~2016年1月

8月18日、教師海外研修で神奈川県、山梨県より合わせて10名の先生方が私の配属先であるキラカラ中等学校を訪問されました。

前日に赴任地であるモロゴロに到着された先生方と顔合わせをし、先輩隊員とともに市内の案内を行いました。赴任から約半年を過ごし“当たり前”の風景になっていた任地ですが、先生方にとって驚きの連続だったようで、「これは?あれはなに?」とさまざまなものに興味を持ってくださり、私も新鮮な気持ちで市内を歩くことができました。また、町の人たちもたくさんの日本人が歩いている様子に興味津々!「写真をとっていきなよ!」と笑顔で声をかけてくれる町の人たちのあたたかさも改めて感じることができました。

翌日にはいよいよ配属先のキラカラ中等学校へ。何ヵ月前から準備して下さっていた交流活動の時間を控え、先生方の期待に満ちた表情が印象的でした。校長先生のもとへ挨拶を行った後に、校内の見学へ。普段の生徒たち、現地の先生方の様子を見ていただきました。

私の受け持つFORM3(高校1年相当)のうち1クラスで授業の見学、そして生徒たちと交流していただきました。準備していただいていたスワヒリ語(現地語)の自己紹介に生徒たちは大盛り上がり!一緒にタンザニアで有名な『Jambo Bwana』という歌をうたったあとに、グループに分かれて「日本語で自分の名前を書いてみよう!」という活動をしました。生徒たちもとても楽しんだ様子で、自慢げに完成した名札を見せてくれました。生徒からの質問にも先生方には快く対応していただきました。日本の先生方から自分たちと同年代の子どもたちの様子を聞くことができ、生徒にとってもさまざまな発見があったようです。日本の友達ができたみたい!と胸を躍らせていました。

たくさんの交流を用意して下さった先生方へ、最後に生徒たちから歌のプレゼント。以前に教えたことのある、いきものがかりの『歩いていこう』を歌いたいと生徒たちが言い、元気に歌ってくれました。

先生方から教わった日本の文化、心が生徒の胸にいつまでも残ることを信じ、これからも生徒とともに歩いていきたいと思えます。



タンザニアでの海外研修から帰国後、2014年10月25日(土)から2015年1月12日(月)までの期間には、JICA横浜で先生方が撮影された写真のパネル展を行いました。

JICA横浜 企画展示



※写真参加された10名の先生

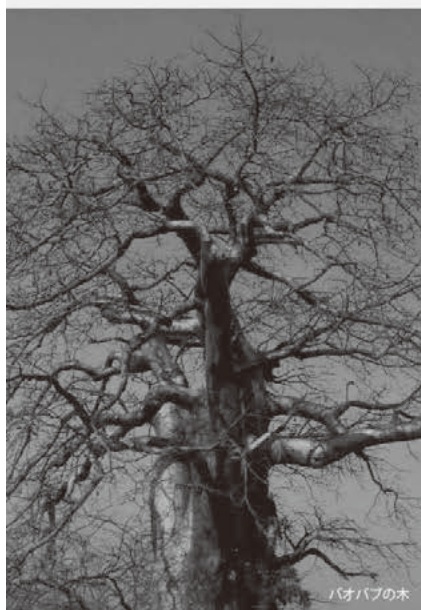
教師海外研修2014

「タンザニアの人々とながり、つながる。私たちが感じ、学んだこと」

2014年10月25日(土)～2015年1月12日(月)

場所：JICA横浜 2F JICAプラザよこはま
開館時間：9:30～18:00(入館は17:30まで) 休館日：不定休
TEL：045-663-3220(直)・045-663-3251(代)
Email：yictpp@jica.go.jp

入館無料



バオバブの木



ホームステイ先でのコマ

先生方にタンザニアでの海外研修中に感じたことや出会いなどから印象に残ったシーン(3枚の写真)を選んでいただきました。

教師海外研修 私の3枚

横浜市立中川小学校 縄田 英愛



「お絵かき」

ホームステイ先の子どもたちに、日本のキャラクターアンケートを行った後に画用紙を渡したらそれぞれ自分が選んだキャラクターを真似して描き始めました。

一生懸命にお手本を何度も見ながら描く子。クレヨンの色を試しに画用紙のはじに塗って、できるだけお手本に近い色を選ぼうとする子。うまく描けない妹の手伝いをしてあげるお兄ちゃん。タンザニアのきょうだいたちの、いろいろな姿を見ることができました。



「日本→タンザニア」

クラスの子どもたちが、タンザニアの人たちに向けて作った「日本を紹介するカード」や「おりがみ」を持って記念撮影。ひとつひとつの説明に熱心に耳を傾けてくれました。

「回転寿司」ってなんだろう???



「親戚めぐり」

お父さんと子どもたち+近所の子どもたちで、車に乗って親戚めぐりへ行きました。

みんなで連れ立ってのお出かけは、特に言葉を交わさなくても心が温まるものでした。

行く先々であいさつをして、握手をして、庭にある果物の木から実をもらって食べ、にっこりと笑いあう、素敵な時間でした。

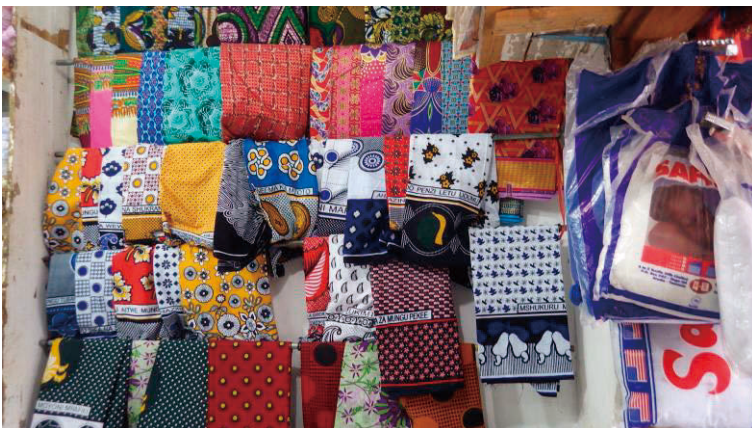
教師海外研修 私の3枚

藤沢市立秋葉台小学校 佐藤 大輔



「カリブ精神」

今回の研修では多くの出会いがありましたが、中でも印象に残っているのはホームステイでした。言葉が分からなくても温かく迎えてくださったご家族。タンザニアの家庭の生活を知ることのできた貴重な体験でした。日本に戻ってもタンザニアで学んだ、誰でも受け入れもてなす、カリブ(ようこそ)精神を見習いたいと思いました。



「タンザニアの伝統布「カンガ」」

町の店先に並ぶカラフルな布。「カンガ」という名前のタンザニアの伝統的布です。タンザニアの女性はこの布を上手に組み合わせておしゃれを楽しんでいます。生活に欠かせない大切なものとして代々受け継がれているそうです。

「HANZINA YA NYUMBA NI UPENDO(家にとって大切なものは愛である)」など、多くのカンガには一枚一枚異なるメッセージがはいっています。タンザニアの人々の心を感じることができます。



「日本とタンザニア」

キラカラ中等学校での交流の時間。教員である私にとって外国の教育現場を見て、生徒たちと触れ合うことは大変興味深い体験でした。日本文化を紹介し、カタカナ習字体験をしてもらいました。日本の子どもたちが作った折り紙で飾り付けをして完成。日本とタンザニアがつながった交流でした。日本の子どもたちにタンザニアやアフリカを身近に感じてほしいと思います。

教師海外研修 私の3枚

横浜市立共進中学校 中村 悠里



「ムトニ湧水にて」

ザンジバルでの2日間にわたるザンジバル水公社（ZAWA）施設の視察。水が各家庭に届くまでのプロセスを ZAWA 職員の苦勞と共に知ることができ、本当に貴重な経験となりました。現地スタッフが着ていたポロシャツにこのプロジェクトが象徴されていて、水の起点である湧水を見つめる後ろ姿が印象に残りました。



「朝の風景」

ホームステイ先の2日目、朝早く外に出ると食器洗いをする女性たちの姿がありました。バケツ一杯の水を大切に使って丁寧にすすいでいく作業に、思わず日本での自分の生活を振り返ってしまいました。箒で家中を掃く次女や、鶏の卵を取りに行く三女など、女性は子どもでも本当によく働いていました。聞けば毎朝の日課だそうです。



「笑顔」

キラカラ中等学校での見学では、いきいきと学校生活を送る生徒たちに出会うことができました。食堂の手伝いで野菜洗いをする彼女たち。案内してくれたクリストファー先生の呼びかけに見せた笑顔が日本の生徒たちと変わらず、どこか安心した気持ちもありました。

教師海外研修 私の3枚

川崎市立川崎中学校 小野 恵子



「ザンジバル」

飛行機から見たザンジバル島。ホームステイ先の人たちはどの辺にすんでいらっしゃるのか、と心躍らせながら明日から行くよ！と約束しました。



「絆」

横浜水道局から以前ボランティアに来ていた人たちとザンジバル水公社（ZAWA）の人たちの写真での再会。嬉しそうに名前を指さすZAWAの職員の人たちがとても印象的で、人とのつながりや絆を感じました。



「国際交流」

ホームステイ先での1枚。どこの国であっても、楽しく感じるのと同じ。子ども達と紙風船で楽しく遊びました。

教師海外研修 私の3枚

神奈川県立横浜修悠館高等学校 古澤 京子



「キラカラ女子」

よく見ると最後列の生徒はノートを取っていません。(あとで誰かのノートを写すのだとか。)しかし、日本の生徒の写真を見せたらどの男子が格好良いかで盛り上がり、カメラを向けたら'やらせ'をしてくれたり。どの国も女の子の反応は、似ているのかもしれない。



「理学療法士としての取り組み」

ザンジバルのムナジモジャ病院で働く沢谷隊員。子どものリハビリの様子を見学させて戴きました。若くして結婚し、子どもに興味の無い母親もいるそうで、「丁寧に説明して、親に関心を持ってもらうことを課題にしています」とおっしゃっていました。



「モロゴロの市場にて」

タンザニアの内陸部にあるモロゴロは、農作物がとっても豊富。市場には色とりどりの野菜が並んでいました。驚いたのは、どのお店もきれいに野菜が積み上げられていること！タンザニア人は几帳面な一面が出ていると思いました。(崩れないのか心配ですが…)

教師海外研修 私の3枚

神奈川県立氷取沢高等学校 古屋 唯生



「キラカラ中等学校にて」

キラカラ中等学校はニエレレ政権以降、部族の融和策としてタンザニア国内各地から集められた生徒たちが集う、教育水準の高い全寮制女子学校の1つです。私たちはこの学校で、交流授業を企画してきました。メンバー全員それぞれの思いが届き、1つにまとまったからこそ成功したのだと思います。生徒たちの明るい笑顔、歓迎してくれた協力隊員、学校関係者の方々に感謝しています。



「環境意識」

今回の研修は水事業、電力事業、医療施設、学校現場等多くを視察してもらいましたが、その各箇所の問題の共通する顕著な例がこの写真1枚で収まるような気がします。住民の環境意識、各事業での日本人社員との意識の差、医療技術等、途上国はまだまだ支援慣れた体制からの脱却に課題があるようです。「地域住民の手で改善・自立させ良くしていく」「人材を育てる」…いつの日かこのゴミがなくなる時が真の意味での「発展」のような気がするのです。

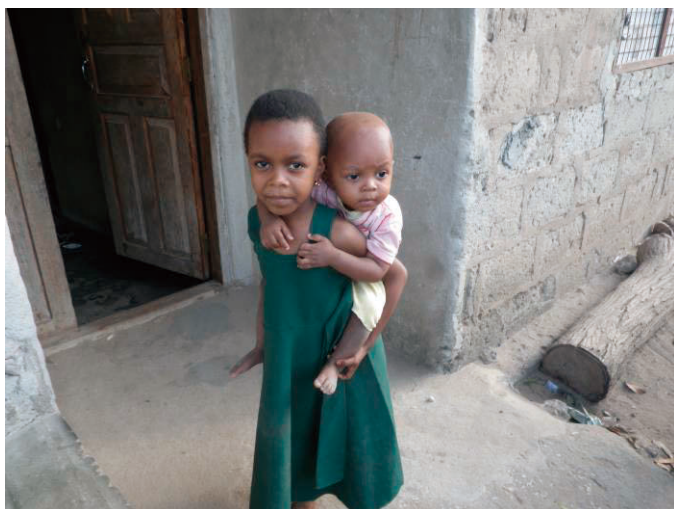


「マドラサにて」

今回の研修での目玉企画の1つに団員それぞれが別れ、ホームステイ体験がありました。ホストファミリーの協力のもと日本の勤務校の生徒を現地とつなげる企画をしました。前日に綿密な打ち合わせをして、日本で生徒とともに用意した「手作りエコハーブ石鹸」のスワヒリ紙芝居・ビラ・石鹸・生徒メッセージを配り、地域のイスラム教育施設（マドラサ）にて、授業は成功し、質問攻めに合うほどの反響、感動しました。

教師海外研修 私の3枚

神奈川県立神奈川総合産業高等学校 増山 一光



「ホームステイで出会った子どもたち (1)」

ホームステイ先の娘さんとその弟です。



「ホームステイで出会った子どもたち (2)」

ホームステイ先では日本人が珍しいため、子供たちが集まってきました。



「ホームステイで出会った子どもたち (3)」

ホームステイ先で出会った女の子に写真を撮らせてもらいました。

(とてもシャイだったのが印象的です)

教師海外研修 私の3枚

川崎市立橘高等学校 鶴嶋 麦



「ザンジバル入国？」

ザンジバルの港にはパスポートコントロールがあり、入国審査を受けなければならなかった。フェリー乗船前にも、荷物検査やボディーチェックがあり、国際線の空港さながらであった。ザンジバルが元は別の国であったということを実感させられた。私たちが入国？目的に問題があるとのことで、長時間待たされた。



「熱心に説明を聞く研修員」

ZAWA（ザンジバル水公社）を訪問してまず感じたのは、専門家チーム・ZAWA 職員、全体が welcome な雰囲気であったことだ。この事業がうまくいっている証しであると思った。この日は供給側の施設である水源や配水所を見て回った。車が何台も連なり、全員が JICA のキャップを被っての視察は圧巻であった。



「無料国際電話」

ザンジバルのプチ観光で見つけた場所である。時間がなくて皆がどんどん先へ行ってしまっているので、日本への電話をかけ損ねた。まあ、ヤシの木に登れるかどうかという別の問題もあるが……。ザンジバルの石畳の街は、細い路地が複雑に入り組んだ迷路である。

教師海外研修 私の3枚

北杜市立甲陵中学・高等学校 木内 美恵



「朝」

6歳の少女はあれやこれやと母親に言われることなく、とても上手にほうきを使って一生懸命に掃除をしています。ほうきは椰子の木の葉で作られています。近所の方が作っている「手作りほうき」です。作り方も見せていただきました。この少女の姿から「身の回りのことは自分でできるように」という母の思いが伝わってきます。



「輝く瞳」

「あなたのことをもっと知りたい」と言って、泊まることになった近所の子供とホームステイ先の子供たち。翌朝、学校へ行く前の様子です。純粋に興味を持って、温かく迎えてくれた真っ直ぐな瞳が印象的です。「日本と一緒に行く」というホームステイ先の少女の願いがいつか叶うといいな。



「ザンジバルでの出会い」

温かく迎えてくれたホストマザー。結婚式のビデオを見せてくれながら、結婚式での踊りを見せてくれています。生活の様子を様々なかたちで教えてくださいました。心から「アサンテサーナ」。こんなにも離れた国にいるのに、とても通じ合えるものがある…とても温かい気持ちになりました。

教師海外研修 私の3枚

神奈川県立高津養護学校 牧 ちさと

「タンザニアの今」



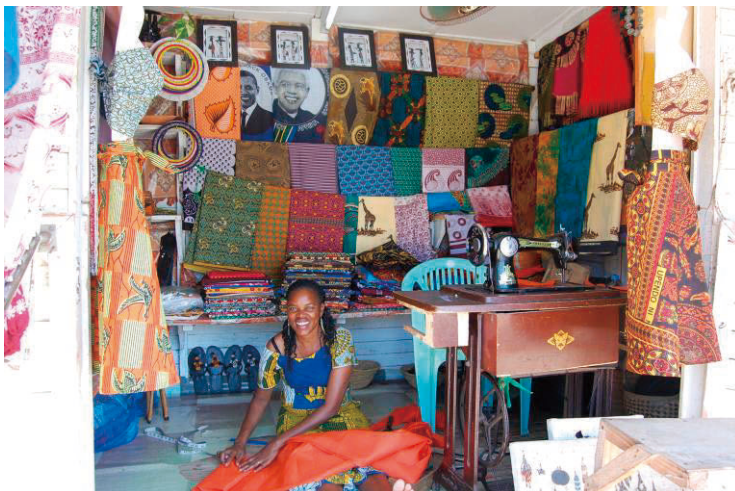
タンザニアに来て驚いたのはとにかく車の多さ！たくさんの日本車が人を乗せて走っていました。中には定員オーバーじゃないの？と気になってしまうくらいたくさんの人を乗せた車も…
一方で、脇を歩く人の中には水を入れた大きなバケツ・果物をたくさん入れたかご等々頭に物を乗せて器用に歩いている人もたくさん見かけました。
自身の予想をはるかに超えた車の普及と自分の予想通りのアフリカの姿がこの一枚に収まっています。

「ホームステイ先での1コマ 現地風の髪型」



今回の研修の一番の楽しみだったホームステイ。ホストファミリーと過ごした時間はかけがえないものとなりました。娘さんの髪型がどうなっているのか気になって尋ねたところ、「あなたにもやってあげるわよ」とくしを使って器用に髪の毛を編んでくれました。日本人の髪質はやりづらいとおっしゃっていましたが、20分ほどで完成しました。髪を編むことによって涼しくなるし、広がらないし、髪を洗う習慣があまりないタンザニア人にとって効率的な髪型なんだと知ることができました。

隣では、カメラに興味がある息子さんが私のカメラでたくさんの写真を収めてくれました。



「思いを伝える布カンガと仕立て屋さん」

タンザニアにはメッセージを込めた布：カンガというものがあります。それを思い思いのワンピースやシャツに仕立てておしゃれを楽しんでいる人がたくさんいました。写真の女性は仕立て屋をしている方です。日本は安価で大量に作られた同じような服であふれています。自分のお気に入りの布で自分に似合う服を仕立ててもらい、伝統的な布を大切に着ているタンザニアの人々にうらやましさを感じました。

実践授業報告



- ※ この報告書に掲載されている写真は、教師海外研修参加者の責任の下に提供されたものを使用しています。
- ※ 参加者の先生、児童・生徒さんの原文をいかして掲載しております。一部ばらつきがありますが、ご了承ください。

アフリカみんなでつながり隊！

実践場所	神奈川県	横浜市立中川小学校	実践者	縄田 英愛
対象	小学5年生		時間数	33時間
担当教科	小学5年生	実践教科	総合的な学習の時間・道徳・社会・国語・算数	
ねらい	自分たちとは違う文化や考え方の中で生きている人たちがいることを知り、多様性を受け入れたり、共感したりできるようにする。また、外国とのつながりを知ったり、つながりを築いたりする経験を通して、「つながり」について考える。			
実践内容	回	プログラム		備考
	1	【世界にひとつだけの名前(道徳)】 ・生命がかげがえのないものであることを知り、自他の生命を尊重しようとする心情を育てる。		<ul style="list-style-type: none"> ・「My name is …世界にひとつだけの名前」(角川書店) ・第5学年社会科教科書(光村図書出版) ・「国際理解教育実践資料集～世界を知ろう！考えよう！～(JICA地球ひろば) ・小学どうとく「心つないで5」(教育出版) ・小学どうとく「心つないで5」(教育出版) ・小学校社会科「社会5」(光村図書出版) ・小学校国語科「国語五銀河」(光村図書出版) ・小学校算数科「新しい算数5」(東京書籍) ・「タンザニア民話とティンガティンガ～虹の七色どこからきたの？～」(株式会社国際語学社)
	2	【世界の中の日本と出会おう(社会)】 ・知っている国のことを話題に出しながら、世界地図で主な大陸と海洋の位置などを確認する。		
	3	【中川のまちと世界をつながり(総合)】 ・自分たちの住む町も、外国とつながりがあることを知る。 ・アフリカに対するイメージをブレイクストーリーングし、学習後の変化の土台とする。 ・アフリカクイズを行い、自分たちの生活にアフリカの国々が関わっていることを知る。		
	4	【村に「世界」がやってきた(道徳—国際理解と親善)】 ・外国の文化を尊重することの大切さを理解し、外国の人に対してわけへだてなく接しようとする心情を培う。		
	5, 6	【アフリカみんなでつながり隊！(総合)】 ・本や資料を使って、興味をもったアフリカの国について調べ、友だちに発表する。		
	7, 8	【タンザニアみんなでつながり隊！(総合)】 ・言葉も通じず、会ったこともないタンザニアの人たちに、自分たちの伝えたいことを伝える方法を考え、表現する。タンザニアについて知りたいことを発表する。		
	9	【世界の食事(道徳—国際理解と親善)】 ・世界に目を向けるとともに、日本を再認識する態度を育てる。		
	10～12	【わたしたちの食生活のこれから(社会)】 ・世界の食糧不足の現状、将来の食料供給の見通し、食料の安全性と自分たちの食生活に関連付けて考える。 ・多くの食料を輸入しているにも関わらず、捨てられていたり、食べ残されたりしている食料が多いという矛盾をとらえる。		
	13～15	【グラフや表を引用して書こう(国語)】 ・食料の輸出入・天ぷらそばの原材料の輸入国・食料の廃棄量などのグラフをもとに、日本は輸入を増やしたほうがいいのか、減らしたほうがいいのか、自分の考えが伝わるように書く。		
	16	【単体量あたりの大きさ(算数)】 ・「人口密度」の意味とその求め方を理解し、ザンジバルやダルエスサラームの人口密度を求める。		
	17	【読書週間(国語)】 ・タンザニア民話の読み聞かせを楽しみ、その特徴や日本の昔話との共通点に気付く。		
	18～33	【タンザニアみんなでつながり隊！(総合)】 ・タンザニアについての興味や疑問に思ったことへの答えやそれにまつわる情報を写真や実物を通して知り、感想を書く。 ・タンザニアに対するイメージの変化をグループで話し合い、発表しあう。 ・タンザニアとの「つながり」について考える。 ・「つながり方」を決定し、グループごとに発表の計画を立てる。 ・発表会を開き、活動の振り返りをする。		
成果	子どもたちにとって文化や考え方が異なる他国に興味をもつだけでなく、日本との共通点や違いを見つける楽しさを感じられる授業になった。また、この単元の前に行った総合の内容と比較して「つながり」について学習したことで、「つながりを築く」ということに対する子どもの考えの幅が広がったように感じる。			
課題	課題としては、はじめの導入の段階で児童に強い問題意識をもたせることができず、教師主導の導入になってしまった。「タンザニア」というアフリカの一国と出会ったことをきっかけとし、環境問題など地球規模の課題についても、深めることができればよかったと思う。			
備考	タンザニアに限らず子どもたちの近くにある、外国につながるのある材を導入にえば、「いつでも開発教育に取り組むことができる授業」ということを目指した。総合での活動の流れに合わせて道徳の内容を、年間指導計画とは順番を入れ替えて授業を行った。			

[授業実践の詳細]

1 時限目 「世界にひとつだけの名前(道徳)」

1 子どもの活動の流れ

- ① 資料の視聴(まえがき部分)
- ② 世界の国々の子どもの名前の由来を聞いて、思ったこと・感じたことを発表しあう。
- ③ 事前に書いてきたワークシート(自分の名前の由来や好きなところ・大切なものなど)の内容を、班の中で発表しあう。
- ④ 友だちの名前の由来を聞いて、思ったこと・感じたことを発表しあう。
- ⑤ 自分で殻つきのピーナッツに名前をつけてみて、どんな子が紹介文を書き、発表しあう。
- ⑥ 班全員のピーナッツを混ぜて、自分のピーナッツを識別できるか試してみる。
- ⑦ 名づけをした感想を発表する。
- ⑧ 資料の視聴(あとがき部分)

この時限のねらい

自分や友だちの名前に込められた思いに触れることで、自分の名前(生命)を大切にし、他者の名前(生命)も尊重する態度を育てる。名前をつける活動を通して「つける側の思い」を体感し、自分がかけがえのない存在であることに気付く。

2 子どもの活動の成果・反応

◇どの子も、自分の名前に込められた意味や思いを発表するときには嬉しそうな表情をし、友だちの名前の由来を聞いて「素敵だと思った」「おうちの人の思いが込められているんだな、と思った」「漢字にも意味を込めているんだと驚いた」などの感想をもつことができた。また、外国の人たちの名前に込められた思いを、自分たちのものと比べて「国が違っても親が子どもに願うことは同じなんだな、と思った」という感想をもつ子もいた。

3 使用した教材

<教材1> My name is...プロジェクト編「My name is...世界にひとつだけの名前」2006年(角川書店)

2 時限目 「世界の中の日本と出会おう(社会)」 省略

3 時限目 「中川のまちと世界のつながり(総合)」

1 子どもの活動の流れ

- ① 最寄り駅に常設されているアンゴラ共和国の壁画について知っていることや想像したことを話し合う。
- ② 「アフリカ」をお題にして、ブレインストーミングを行い、発表しあう。
- ③ アフリカと日本のつながりクイズを行う。
- ④ 振り返り

この時限のねらい

自分たちの住む町も、外国とつながりがあることを知る。
アフリカに対するイメージを把握する。
自分たちの生活にアフリカの国々関わっていることを知る。

2 子どもの活動の成果・反応

◇どの子ども目にしたことのある、駅の壁画(2008年TICADIVの際にアンゴラ共和国から寄贈されたもの)をきっかけに導入を行ったことで、子どもたちにとって遠い存在であるアフリカの国を身近に感じさせることができた。「幼稚園の頃に見た!」と設置された時の様子を覚えている子もいて、自分たちの住むまちと世界とのつながりに関心をもち始めた様子だった。ブレーストーミングでは、アフリカに対して「貧しい」「野生動物がたくさんいる」「暑い気候を生かしている」「飲み物がおいしい」などの意見が出た。その後の、クイズをやった後の感想には、「日常で使っているものが、こんなにアフリカと関係していると知って驚いた」「アフリカは発展していないと思っていたけど、発展していてすごいと思いました」「もっとアフリカのことを知りたいと思った」と、驚きと同時に「アフリカのことを知りたい」という意欲づけにつながった。

3 使用した教材

<教材1>「国際理解教育実践資料集～世界を知ろう! 考えよう!～」(JICA地球ひろば)

<教材2>横浜市営地下鉄 センター北駅 アンゴラ共和国寄贈「友好の証」2008年



4 時限目「村に「世界」がやってきた(道徳)」 略

5-6 時限目「アフリカみんなでつながり隊!(総合)」

1 子どもの活動の流れ

- ① アフリカの国々に関する本や資料を読み、興味をもったことについて詳しく調べる。
- ② 調べたことについて、友だちに発表する。

2 子どもの活動の成果・反応

◇学校の司書の先生にも協力していただき、図書室にあるアフリカに関する本を何人かで一緒に読んだ。前時に行ったブレーストーミングで出たイメージの答えを探す子や、知らなかったアフリカの国名を見つけて、自ら地図帳で確認する子などもいた。日本との違いに興味をもち、楽しんで調べ学習を行っていた。

3 使用した教材

<教材1>田中光常「写真でみる 世界どうぶつ家族5 アフリカ1・2」1996年(株式会社岩崎書店)

<教材2>渡辺一夫「世界各地のくらし-18 ケニアのくらし」1996年(株式会社ポプラ社)

<教材3>東菜奈「国際理解に役立つ 行ってみたいなあんな国こんな国⑤南アメリカ・アフリカ」1999年(株式会社岩崎書)

<教材4>編集 河添恵子「世界の子どもたちはいま 第I期 全8巻⑥ ケニアの子どもたち」

この時限のねらい

本や資料を使って、興味をもったアフリカの国について調べたりまとめたりする活動を通して、アフリカの国々への理解を深める。

2000年(株式会社学習研究社)

<教材5>編 朝日新聞社「AJB 朝日ジュニアブック 世界の地理」2000年(朝日新聞社)

<教材6>編・著 こどもくらぶ「きみにもできる 国際交流⑭ケニア」2000年(借成社)

<教材7>文 佳元拓実「国際理解に役立つ 世界の衣食住 6 アジア・アフリカの家」

2001年(株式会社小峰書店)

<教材8>文 久保田陽子「国際理解に役立つ ヨーロッパ・南北アメリカ・アフリカ・オセアニアの
民族衣装」2001年(株式会社小峰書店)

<教材9>町田和彦「世界の文字と言葉入門⑩ラテン文字と世界の言葉」2005年(株式会社小峰書店)

<教材10>文 ケリー・クネイン 訳 児島希里「ぼくのだいすきなケニアの村」2007年(BL出版株式会社)

<教材11>JICA 地球ひろば「ぼくら地球調査隊 (世界の水問題・学校にいけない世界の子どもたち・
砂漠化する惑星・いのち、輝け!・世界の食料)」2010年(独立行政法人国際協力機構)

<教材12>文 ニック・クレイン 訳 柏木しょうこ「WORLD ATLAS 世界をぼうけん! 地図の絵本」
2013年(実業之日本社)

<教材13>文 ハンナ・ショット 訳 佐々木田鶴子「ただいま! ムラング村 タンザニアの男の子のお話」
2013年(徳間書店)

7-8 時限目「タンザニアみんなでつながり隊!(総合)」

1 子どもの活動の流れ

- ① 担任がタンザニアに行くことを知る。
- ② タンザニアの人たちに伝えたことや知りたいことを付箋紙に書いてグルーピングする。
- ③ 自分たちが伝えたいことを伝えるには、どのような方法で伝えたらよいか話し合う。
- ④ それぞれが考えた伝え方(折り紙・ちぎり絵・イラスト)で、自分の伝えたいことをカードに表現する。

この時限のねらい

言葉も通じなく、会ったこともないタンザニアの人たちに、自分たちの伝えたいことを伝える方法を考え、表現する。

2 子どもの活動の成果・反応

◇「伝えたいこと」の内容としては、「富士山」「和食」「四季」「回転ずし」「めんこ」「鏡餅」「スカイツリー」などが挙げられた。世界遺産や無形文化遺産に認定されたことを、その理由とする子どももいて、私が思っていた以上に、子どもたちは「日本ならではのもの」に関心をもったり、誇りに思ったりしていることが感じられた。カードを作る際には、一生懸命にローマ字や知っている英単語を使ったり、折り紙や切り絵・イラストで伝えたいことを表現したりしていた。タンザニアの人たちに届くことを、楽しみにしている様子だった。

<子どもたちが作った日本の紹介カード>



9 時限目「世界の食事(道徳)」

1 子どもの活動の流れ

- ① 家での食事の様子を思い出す。
- ② 資料「世界の食事の写真」を見て、違うところや同じところを話し合う。
- ③ 担任のホームステイ先での食事の様子や「一緒に食事をした人は、家族だよ」という、他のホストファザーの言葉を聞いたり、写真を見たりしながら、大切なことは何なのかを考える。
- ④ 空腹を満たすこと以上に、いろいろな意味や働きや文化があることをしっかりと把握する。

この時限のねらい

世界に目を向けるとともに、日本を再認識する態度を育てる。

2 子どもの活動の成果・反応

◇教科書で使用されている国は、日本・サウジアラビア・インド・ヨーロッパの国であったが、日本との比較だけでなく、外国同士の比較や共通点を見つけて喜ぶ子どもも増えてきた。どの国も米か小麦が主食になっていることに気付き、「やっぱり炭水化物をどこの国でも食べるんだ！」と感動している子どももいた。ホームステイ先では、教師も同じように手で食事をしたことを話すと、とても驚いていた。ちゃんと手を洗って食べたかを気にする子もいて、石鹸は使わなかったことを伝えると、「先生、それはまずいよ！おなか壊さなかった？」と心配された。日本の衛生教育が徹底していることの表れであると感じた。また、教師が他の同行者に聞いた「一緒に食事をした人は、家族だよ。」という言葉が伝わったところ、「それじゃあ、このクラスは家族ってことだね！」と嬉しそうにしていた。世界の国々との共通点を喜び、同時に日本の良さにも気付くことができた様子だった。

3 使用した教材

<教材1>タンザニアの食事の写真



<教材2>小野先生がホームステイ先で食事をしている写真



<教材3>小学どくとく「心つないで5」(教育出版)

10-12 時限目「私たちの食生活のこれから(社会)」

略

13-15 時限目「グラフや表を引用して書こう(国語)」

略

16 時限目「単位量あたりの大きさ(算数)」

略

17 時限目「読書週間(国語)」

略

1 子どもの活動の流れ

<18-22 時限目>

- ① 担任からタンザニアの様子や、知りたかったことを聞いたり、タンザニアのものに触れたりする。
- ② タンザニアのことを知っての感想、疑問をワークシートに書き、友だちと感想を発表しあう。
- ③ タンザニアに対するイメージの変化をグループごとに話し合い、発表しあう。

<23-24 時限目>

- ④ これまでの活動を振り返り、タンザニアの人たちと「つながる」ことができたのかどうか考える。
- ⑤ これまでの総合の学習で経験した「つながり」と異なる点や共通点と比較する。
- ⑥ 「つながる」ということは、どういうことなのかを考え、発表しあう。
- ⑦ 今の自分たちにできる、「つながり」の作り方を考える。
- ⑧ 一人ひとり、どんなタンザニアのもの・人・ことでつながりたいかを決める。

<25-33 時限目>

- ⑨ グループごとに(ティンガティンガ・カンガ・歌・食べ物・日本の紹介カードを渡した人たち)、発表の準備をする。
- ⑩ 発表会を開く。
- ⑪ 「つながり」を築くことの難しさや楽しさを振り返り、感想を書く。

2 子どもの活動の成果・反応

<18-22 時限目>

初めに「タンザニアの人たちは、あいさつをととても大切にしている」というエピソードを話し、毎回授業の初めにはスワヒリ語であいさつをするようにした。文化について、「カンガを着てみよう！」と渡したところ、初めは恥ずかしがっていた子ども身に着けて楽しんでた。また、着るだけでなく、何人もの友だちと包まって遊ぶ子どもいた。子どもたちが作ったカードや折り紙を教師が渡している写真や、自分の作ったものをタンザニアの人たちが持っている写真を見ると、とても喜んで「本当に持っている！」と驚きの声をあげている子どもいた。「タンザニアの人たちが困っていること」の質問の答えが、ホームステイ先のお父さんの「困っていることはない」だったことには、多くの子どもたちが驚いていた。その言葉は、心からの言葉だったと思うが、タンザニアについて子どもたちが「困っていることはない＝支援等はしなくてもいい」という思考につながってしまうことへの恐れもあったため、担任がタンザニアで困ったことや不便だと思ったこと(水が十分に使えない、住所がない、電力が安定しない、など)を話し、素晴らしいところもたくさんあるが、まだまだタンザニアは日本の協力を必要としていること、そのためにタンザニアの人たちと一緒に働いている日本人の方々がいることを伝えた。

この時限のねらい

タンザニアについての、興味や疑問に思ったことへの答えやそれにまつわる情報を、写真や実物を通して知る。
知りえた情報を整理したり、日本との比較をしたり、タンザニアに対するイメージの変化を感じる。

この時限のねらい

自分たちとは違う文化や考え方の中で生きている人たちがいることを知り、多様性を受け入れたり、共感したりする。
外国とのつながりを知ったり、つながりを築いたりする経験を通して、「つながり」について考える。

<23-24 時限目>

子どもたちが初めに考えた「つながる」は、「日本風のカンガを作って送る」「一緒に何かをする(遊ぶ)」「関係を深める」「自分たちのことを伝える」「お互いの文化やいいところを知る」「言葉を覚える」「電話で話す」などの、直接的な関わりが多かったが、総合の別の単元で学んだことを全校の学習発表会の場で発表したことを思い出し、「自分たちが知ったタンザニアのことを、他の人たちに伝えるということも、つながるとかつなげることだと思う」という意見が出され、同じ学年の他のクラスの友だちにタンザニアのことを伝えることに決めた。

<25-32 時限目>

担任が使用した写真やインターネットを使って、各グループで自分が伝えたいこと・つなげたいことについて調べたりまとめたりした。カンガグループは、「私たちの中川小学校が永遠に続きますように」という言葉をスワヒリ語に訳すことを、キラカラ中学校で活動している協力隊の稲村隊員宛にメールでお願いした。

<33 時限目>

中休みを使って他のクラスの友だちに発表会を行い、振り返りを行った。子どもたちの感想は、「私は、タンザニアの人たちとつながれたと思います。他のクラスの人たちにタンザニアの素晴らしさを知ってもらえたと思います。タンザニアの人たちは、正直に言うと怖いイメージがあったのですが、やさしくて思いやりのある人たちだったのでびっくりしました。クラスのみんなでタンザニアのことを調べて良かったことだけでした。」「僕たちが直接タンザニアに行って手紙を渡すことはできなかったけれど、先生が手紙を渡してくれたのでつながれたかなと思いました。他のクラスの人にタンザニアのことを伝えて、タンザニアと5-3のつながりだけではなく、タンザニアと中川のつながりにしていきたいなと思いました。つながることは簡単でも、そのつながりを深めることはいろいろ伝えなければ難しいと思うので、積極的に話しかけてつながりを深められればいいなと思います。」など、長い時間をかけてタンザニアについて学んだことや、他のクラスの友だちとタンザニアをつなげる発表を通して、「つながる」こと「つなげる」ことについて多くのことを学んだ様子であった。

<カンガグループ>



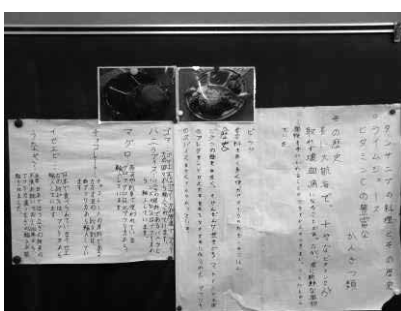
<ティンガティンガグループ>



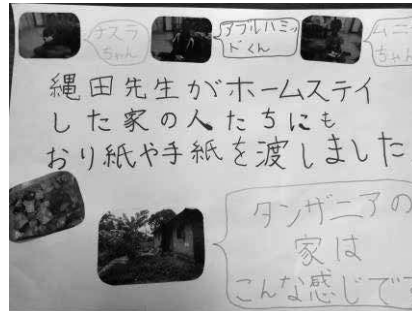
<歌グループ>



<食べ物グループ>



<交流グループ>



1 授業の様子

〈写真1〉日本を紹介するカード作り(総合)



〈写真2〉世界の食事フォトランゲージ(道徳)



〈写真3〉発表に向けての準備



〈写真4〉発表会の様子



2 参考文献・資料

- 1) 駐日タンザニア大使館 <http://www.tanzaniaembassy.or.jp/>
- 2) 在タンザニア日本大使館 http://www.tz.emb-japan.go.jp/index_j.htm
- 3) 農林水産省「ジュニア農林水産白書 ぼくらの大地・森・海の恵み」
http://www.maff.go.jp/j/wpaper/w_junior/h26/index.html
- 4) JICAぼくら地球調査隊 <http://www.jica.go.jp/kids/pages/index.html>
- 5) 西あい 湯本博之(特活)開発教育協会『開発教育実践ハンドブック「参加型学習で世界を感じる」』
2003年(特定非営利活動法人 開発教育協会)
- 6) JICA地球ひろば川合優子「すべての人々にうるおいを…集まれ!地球の教室」
2009年(独立行政法人国際協力機構)
- 7) 独立行政法人国際協力機構広報室「Find the Link どうなってるの?世界と日本 わたしたちの日常から
途上国とのつながりを学ぼう」2010年(独立行政法人国際協力機構)
- 8) JICA教材作成実行委員会「国際理解教育実践資料集~世界を知ろう!考えよう!~」
2013年(独立行政法人国際協力機構地球ひろば)
- 9) 宮城裕見子「旅の指さし会話帳 60 ケニア スワヒリ語」2005年(株式会社情報センター出版局)
- 10) 宇野みどり「タンザニア民話とティンガティンガ~虹の七色どこからきたの?」2005年(国際語学社)

11)横浜市教育委員会事務局「横浜版学習指導要領 指導資料 総合的な学習の時間編」
2010年(株式会社ぎょうせい)

世界に目を向け、自分の考えを持とう

実践場所	神奈川県	藤沢市立秋葉台小学校	実践者	佐藤大輔	
対象	小学5年生		時間数	10	
担当教科			実践教科	総合・学活・図工	
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・タンザニアという国、人々の生活、文化を知り、多様な価値観を持つ。 ・タンザニアの現状から自分が持っていた先入観に気づき、偏見を排除する。 ・世界に目を向け、自分ができる国際協力を考える。 				
実践内容	回	プログラム		備考	
	1	タンザニアのイメージは？ ・アンケートに答えて、タンザニアについてのイメージを共有する。		・アンケート	
	2 ～ 5	タンザニアを体感！ ① 地理 言葉 歌 通貨 ② カンガ ③ ティンガティンガ ④ 料理 を体験してタンザニアの文化に親しむ。		・タンザニアの紙幣・硬貨 カンガ ・ティンガティンガ ・ウガリ	
	6	世界を感じよう～貿易ゲーム～ ・ゲームを行い、世界の現状を体感する。		・貿易ゲームセット	
	7	タンザニアピクチャークイズ ・いろいろな国の写真からタンザニアを選び、自分のイメージの偏りを感じ取る。		・タンザニアや日本 その他の国の写真	
	8	写真から考える、タンザニアの水問題 ・ウォーターキオスクの写真から水問題を考える。		・ポリタンク ・ウォーターキオスク写真	
	9	援助する前に考えよう ・支援の仕方を省みて今後の自分の行動を考える。			
	10	自分のできる援助～タンザニアで活躍する日本人～ ・日本人の活躍を知り、自分のできる支援を考える。			
	成果	今回、子どもたちはアフリカのタンザニアという国について知り、世界について考えるきっかけになったと思う。また、今まで自分が持っていた偏ったイメージや偏見に気づき、多様な文化や国々について受け入れられるような気持ちが少なからず強まったように思う。			
	課題	国際理解教育等では、その国のことを聞くなど受動的な活動が多い。しかし、今回実践を行い子どもたちが主体的に考えられるような活動が大切だと感じた。また継続的な実践を行うことでより理解が深まると感じた。今後も学年の実態に合った内容を考え、年間を通したな実践を心掛けていきたいと思う。			
備考	本研修を通して、多くの現場訪問やホームステイで現地の生活を体験することができた。こうした生の体験は、子どもたちに伝える上で、今後の教員生活にとって大きな財産となります。この研修にご協力いただいた方々、同行したメンバーに感謝致します。				

[授業実践の詳細]

1 時限目 「タンザニアのイメージは？」

1 子どもの活動の流れ

- ① タンザニアの位置を世界地図から知る
- ② 今持っているタンザニアのイメージを書き出す。
- ③ タンザニアの中学生への質問を考える。
- ④ 折り紙や手紙を作成する。

この時限のねらい

タンザニアについて興味を持ち日本からのメッセージを考える。
タンザニア(アフリカ)について持っているイメージを出し、友だちと共有する。

2 子どもの活動の成果・反応

子どもたちはほとんどの子がタンザニアの位置を答えることができず、またタンザニアという国すら知らない子どももいた。今回は日ごろからのイメージのアフリカを自由に出してもらった。アンケートの回答には、「動物が多い」「暑い」「木やわらで作った家に住んでいる」といったステレオタイプのものが多く見られた。この偏ったイメージを帰国後に崩していきたい。また、子どもたちの作った折り紙や手紙が届いた写真を見せ、つながりを感じることで世界を身近に感じさせたい。

子どもたちのイメージ

あつい。砂漠チーターがいそう。部族がいそう。家族が多そう。テレビがなさそう。
土器を使っている。肌が黒い。木が多い。色々なフルーツがある。狩りをしている。
虫を食べている。水を取りに行っている。電気が通ってなさそう。全部自分たちでやっている。

3 使用した教材

- <教材1>アンケート(※別添)
- <教材2>世界地図

2-5 時限目 「タンザニアを体感！」

1 子どもの活動の流れ

- ① タンザニアの概要を知る
- ② 文化を体験する。

この時限のねらい

タンザニアの地理的位置、言語、料理、衣服、絵画、歌などを知り体験、しタンザニアの文化に親しむ。

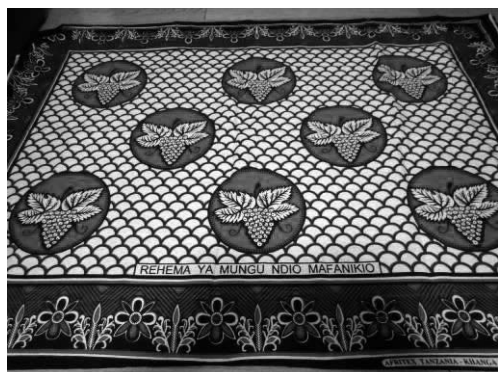
2 子どもの活動の成果・反応

初めて知ることが多く、興味深く話を聞き、実際に手に取るなどしてタンザニアの文化を体感できたように感じる。タンザニアの言語であるスワヒリ語でコミュニケーションを取ったり、歌を歌ったりした。

タンザニアのアート、ティンガティンガは実物を参考にしながら、布に描いて本場と近いやり方でおこなった。食生活に関しては、主食であるウガリを実際に作って、現地の方々と同じように手で食べるなど、体験的活動を多く取り入れるように心掛けたので、タンザニアの文化を楽しみながら受け入れることができた。この経験から自分で調べたり、メディアなどでアフリカが取り上げられると積極的に目を向け話をしている姿を見られるようになった。

3 使用した教材

＜教材3＞カンガ



＜教材4＞ウガリ



＜教材5＞ティンガティンガ



6 時限目「世界を感じよう～貿易ゲーム～」

1 子どもの活動の流れ

- ① 貿易ゲームのルールを知る。

- ② グループに分かれ、貿易ゲームを行う。
- ③ 振り返りカードに感じたこと書き、共有する。

2 子どもの活動の成果・反応

貿易ゲームとは紙や道具を不平等に準備されているグループに分かれて行う、貿易シミュレーションゲームである。

子どもたちははじめは戸惑っていたが、徐々に交渉が始まり、活発に交流していた。途上国グループの子どもたちは困っていたりイライラしたりして体験的に不平等さ、貧困を学べたように思う。先進国チームは競争心が大きくなる傾向があり、立場による変化を感じたように思う。少しでも国と国とも関係を感じ世界を考えるきっかけになったと思う。

この時限のねらい

貿易ゲームを行うことにより、世界の現状を知り、先進国と発展途上国の関係性を実感する。
世界について考えるきっかけをつくる。

子どもたちの感想から

- ・何もできずどうすればいいのかわからなかった。
- ・交渉に応じてくれずイライラした。途上国の人はものを作るのも大変だと思った。
- ・上から目線になってしまった。お金を稼ぐことばかり考えていた。
- ・協力すればよかった。
- ・アフリカとかはこんな感じなのかなと思った。
- ・生まれた時から差がありすぎる。
- ・不平等、くやしい。
- ・バカにされているような気がした。
- ・なにもできなくて困った。
- ・上から目線になってしまった。

3 使用した教材

<教材6>貿易ゲームセット(紙、定規、コンパス、鉛筆、はさみ等)

7 時限目「タンザニアピクチャークイズ」

1 子どもの活動の流れ

- ① クイズに答える(写真を見て、どこの国の写真なのか予想する。)
- ② 答えあわせをする。
- ③ 自分とのイメージの違い、選んだ理由などを共有する。

2 子どもの活動の成果・反応

渡航前のアンケートでは、アフリカ(タンザニア)のイメージは「大自然」「自給自足の生活」のようなメディアから伝わるイメージのみの偏ったものであった。今回もそのイメージのまま写真を選んでいる子が多かった。

時限のねらい

子どもたちが持っている、タンザニア(アフリカ)の偏ったイメージを変える。
同じ国の中でも都市を地方では違いがあることを知る。

タンザニアの都会の写真を見せると、驚いた様子で自分のイメージがいかに狭いものか、一面的なものか。感じたように思う。「日本と変わらない」などの感想を持っていた。

また都会の発展している面と地方のまだまだ発展途上の二面があり、日本よりも差が大きいということを感じとっていたように思う。

子どもたちの感想

- ・同じタンザニアでも、こんなに差があるんだと思った。
- ・日本かと思った写真があった。 ・高層ビルがあると思わなかった。
- ・イメージ全然違った。 ・携帯電話を使っているんだ。

3 使用した教材

<教材1>タンザニアの写真、日本の写真、その他の国の写真 A4 サイズ

8 時限目「写真から考える、タンザニアの水問題」

1 子どもの活動の流れ

- ① タンザニアの現状を資料から読み取る。
- ② フォトランゲージ、水問題を写真から考える
- ③ 水がないことでどんな問題につながるか考える。

2 子どもの活動の成果・反応

◇前回の授業ではタンザニアの発展した様子を中心に紹介した。

今回はタンザニアが最貧国であり、まだまだ発展途上であるという事を日本と比べながら伝えると前回のイメージともギャップに驚いていた。フォトランゲージでは、水問題に焦点を当ててウォーターキオスクの写真から様々な疑問・発見をしていた。その後はグループで安全な水にアクセスできないことでどのような問題につながっていくのかを考えた。

この時限のねらい

タンザニアの現状を理解し、最貧国に分類されていることを知る。
写真からタンザニアの水問題を考え、グループで話し合う。

3 使用した教材

<教材7>ウォーターキオスクの写真



<教材8>ポリタンク



9 時限目「援助する前に考えよう」

1 子どもの活動の流れ

- ① スライドを見てタンザニアの様子を知る。
- ② 自分は寄付するかどうか考え、グループで話し合う。
- ③ 援助についての自分の考えを書き、発表する。

この時限のねらい

相手のことを考えた援助について考え、今後自分ができる国際協力を話し合う。

2 子どもの活動の成果・反応

子どもたちは援助・寄付に対して、する物すればすればいい物と考えているようで、ほとんどの子が寄付するか指定の金額以上の寄付をしているという意見が多かった。その後に援助したお金の使い道の何通りかの話をする、単純にするだけでなく、相手の状況やその後の成果を考えて寄付するように考え直している子が多かった。

3 使用した教材

<教材9>パワーポイントスライド援助する前に考えよう

10 時限目「自分にできる援助～タンザニアで活躍する日本人～」

1 子どもの活動の流れ

- ① タンザニアで活躍する日本人について知る。
- ② 自分ならどんな支援をするか考える。
- ③ 友だちと考えを共有する。

この時限のねらい

タンザニアで活躍する日本人の存在を知り、自分たちができる国際協力を考える。

2 子どもの活動の成果・反応

タンザニアで働いている人々の話を聞いて、子どもたちはその中での努力や苦勞を感じとり、遠くのアフリカでも活躍できるということを知った。子どもの意見の中には、国際協力を興味を持ち、海外に目を向けているものもあった。同じ日本人が活躍しているという事で身近に感じることができ、自分たちができる国際協力について考えるきっかけになったように思う。

3 使用した教材

<教材10>タンザニアで働く人々や職場の写真



■ 全体を通して

今回のこの研修に参加させていただいて、実際に多くの開発の現場を見ることができた。また、ホームステイでは実際にタンザニアの人々の生活を感じることができた。これら生の経験は、自分にとってもクラスの子どもたちにとっても、国際協力を考えていく上でとても良いきっかけになったと思う。また、事前研修から始まり、タンザニアでの現地研修、帰国後の研究授業を含めた事後研修と一年を通して開発教育や国際協力について考えることができたのは大きな財産であると思う。

私の第一の目的が子どもたちに生の情報を伝えることだった。実際に伝えていくと子どもたちは初めて知る事、自分の常識とは異なることに興味深々だった。また、自分が持っている世界の現状や発展途上国のイメージの偏りを意識したように思う。これは身近な存在である担任が、実際に体験したからこそできたものだと考える。

今後も子どもたち対し、様々な国の文化や人々の多様な考え方を受け入れ、理解を促すような授業を行っていきたい。大切なことは継続して行い、子どもたちに深く考えさせることだと実感したので、今後も継続的に実践を続け、多様な価値観を持ち世界で活躍するような児童の育成に努めていきたい。

1 授業の様子

<写真1> カンガを体験



<写真2> 日本の子どもからタンザニアの子どもへ



<写真3> タンザニアのアートティンガティンガを描きました。



<写真4> 貿易ゲーム 話し合いをする子どもたち



2 参考文献・資料

- 1) ユニセフ「世界子供白書 2014 統計編」
- 2) 開発教育協会・神奈川県国際交流協会「新・貿易ゲーム 経済のグローバル化を考える」
- 3) 開発教育協会「援助する前に考えよう」

以上

3 使用した教材

<教材1>アンケート

タンザニアのイメージは？

- ・タンザニアがある大陸は？
- ・タンザニアの人は何を食べているのでしょうか。
- ・タンザニアの人はどんな仕事をしているのでしょうか。
- ・タンザニアの小学生が好きな遊びは何でしょうか？
- ・タンザニアの気候は？
- ・タンザニアの名産品は？
- ・タンザニアの観光地は？
- ・タンザニアの人に聞いてみたいこと？

国際協力～見て、知って、考える～

実践場所	神奈川県	横浜市立共進中学校	実践者	中村 悠里
対象	中学2・3年生		時間数	8時間
担当教科	英語	実践教科	英語・道徳	
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・タンザニアを通して、世界の抱える諸問題に目を向ける。 ・実在の人物の行動や、タンザニアの実際の生活に触れ、異文化に興味を持つ。 ・国際社会の一人として、自分たちにできることを考える。 			
実践内容	回	プログラム		備考
	1	【アフリカを知る】(2・3年英語) ・クイズ形式のBINGOを通して基礎知識を学ぶ。 ・タンザニアの写真を通して、気が付いたこと、感想等を共有する。(フォトランゲージ)		【使用教材】 パワーポイント(写真) ワークシート
	2	【タンザニアの文化を知る】(2年英語) ・パワーポイントを使ってタンザニアの文化を紹介する。 ・比較級を使った英文を読み、グループで予想図を描く。 ・実物を見せる。(楽器、カンガ)		パワーポイント リーディング教材
	3	【タンザニアの水問題を考える】(3年英語) ・教科書に載っているカンボジアの水事情を学ぶ。 ・タンザニアの水事情を説明し、ワークシートに考えを記入する。		教科書 パワーポイント(写真)
	4	【ダイヤモンドランキング】(2年英語) ・比較級を使って「大切なものランキング」をつくる。 ・自分のランキングとタンザニアの生活を比較する。		パワーポイント(写真) ワークシート
	5	【タンザニアで頑張る日本人を知る】(3年英語) ・英文を読んで、気が付いたこと、感想等を共有する。		
	6	【世界の現状を知る】(3年道徳) ・「世界がもし100人の村だったら」		ワークシート
	7	【私たちにできることを考えるⅠ】(3年英語) ・自分たちと同年代のマララさんやセヴァンのスピーチを聞いて、自分たちにできる国際協力を考える。		
	8	【私たちにできることを考えるⅡ】 ・実際現地に行った体験を聞くことで、国際協力に目を向ける。		JICA出前講座
成果	タンザニアを通して、世界の現状を知ることができた。写真や実物を多く見せることで、異なる文化に興味を持ったり、暮らす人々を身近に感じたり、生徒たちが変わっていく様子を見ることができた。また、生活環境の違いを知り、自分たちの生活を見直すきっかけとなった。			
課題	写真や実物に触れることによって異文化に興味を持たせることはできたが、国際協力について生徒自身により深く考えさせるためには、継続して働きかけていく必要があると感じた。自分たちの考えをアウトプットする機会を多く設けていきたい。			
備考	教科内のみにとどめず、道徳や総合の時間を活用したアプローチを展開していく必要があると感じた。			

[授業実践の詳細]

1 時限目 「アフリカを知る(2・3年英語)」

1 子どもの活動の流れ

- ① クラス内でアフリカと聞いて思い浮かぶイメージや知っている知識を挙げてもらい、クラスで共有した。
- ② ワークシートを配布し、BINGO 形式でアフリカの基礎知識のクイズを出した。
- ③ クイズの答え合わせを兼ねて、研修に撮影した写真を見せてタンザニアの生活の様子を伝えた。

この時限のねらい

タンザニアの写真やクイズを通してアフリカの国々に興味関心を持つ。写真についてその国の暮らしを予想することで、より身近に感じ、より深く知ろうとする気持ちを育てる。

2 子どもの活動の成果・反応

◇生徒たちのアフリカに対するイメージは「砂漠」「貧しい」「動物」「暑い」という意見が多く見られ、「行ってみたいか?」という質問にもほとんどの生徒が首を振った。また、色に例えると「黒や茶色」という答えが返ってきた。また、経済成長率やエネルギーによる発電に関するクイズでは、アフリカのめまぐるしい発展を初めて知る生徒もいるようであった。反対にチョコレートやレアメタルの輸入など知識がある生徒から出た意見をクラス全体で共有できたことはよかった。

◇答え合わせの際に写真を見せたことで、タンザニアの生活がイメージしやすかったようで、興味深く写真に見入る生徒の姿が見られた。

3 使用した教材

<教材1>タンザニアの写真

<教材2>アフリカの基礎知識(JICA ホームページより『クイズで知るアフリカ』)、BINGO シート

 1	Kachumbari It is a fresh tomato and onion salad dish. It is popular in Africa. It is spicier and saltier than Japanese one. They usually eat it with main meals or snacks.	 3	 4	◆Task 1 Read the sentence for 1 minute. (1分間、文を読む) ◆Task2 Draw a picture with teammates. (チームで協力して絵を描く)	mbira 6
 7	khanga 8	 9	 10	 11	 12
mbira 13	It is something to play. We also call it thumb piano. It is smaller than a piano. It looks like a small box and it's made of wood. We play it by holding it in the hands and plucking the strings with the thumb. Shorter string can make higher voices. Normally there are about fifteen strings on it. 14	khanga 15	It is something for women to wear. color and wrap something. It is very colorful. You can see brighter colors on it than other colors. Sometimes there are many flowers printed on it. It is longer and wider than skirts so it can cover you from neck to knee. It is very traditional fashion culture in east Africa. * from neck to knee * * skirt * 16	ugali 17	 18

1 子どもの活動の流れ

- ① キリマンジャロの写真を黒板に貼り、どこにあるか予想してもらう。
- ② パワーポイントでタンザニアの料理「ウガリ」「カチュンバリ」を紹介する。「Ugali」「Kachumbari」という単語から、どのような料理であるのか予想させる。その際に簡単な説明文を英語で読ませる。何人かに黒板に書いてもらう。
- ③ パワーポイントを使い、リーディング授業の説明をする。

【授業の流れ】個人で英語の文を2分間読む。→グループでどんなものか推測する。→代表者を決め、前に出て予想図を黒板に書いてもらう。→実物を見せて答え合わせをする。

- ④ スクリーンに英語の文を表示し、全体で文法事項の説明をする。(比較級)
- ⑤ 全体に感想を書かせてまとめをする。

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇普段から英語の文を読むこと(リーディング)に苦手意識を持っている生徒が多く、授業の中で扱うことに不安があったが、いつもと違うテーマで意欲的に取り組む姿が見られた。一人ずつではなく、グループで協力することで、単語などを教えあう姿が見られたのはよかったと思う。
- ◇見たことのない単語からタンザニアの文化を予想することは、思ったよりも難しかったようだが、分かる単語から推測していた。自分たちの予想と全く違う実物を見て驚いた様子も見られたが、真剣に考えた分、実物から受けた印象も強いようだった。
- ◇生徒の感想からは「アフリカは色が少ないイメージだったが、カンガの色がとても鮮やかで驚いた。」「楽器類は見たことがあったが、実物は意外に小さかった。」「素朴な素材を使っていた。」「実際に使うところが見てみたい。」などの声があがり、タンザニアの文化を前向きに知ろうとする姿勢が見られた。生徒たちの様子を見ていて、写真や情報だけでなく実物に触れて直接感じたことを大切にしていってほしいと思った。

3 使用した教材

- <教材1> パワーポイントスライド
- <教材2> リーディングシート
- <教材3> タンザニアの楽器・カンガ



この時限のねらい

写真や実物を見ることで、タンザニアの文化を身近に感じる。
クイズ形式にすることで、英語の文を読んで理解しようとする意欲を育てる。

ngoma

It is something to play. We use it like drums but it is smaller than drums. It has animal's skin around, for example zebras' or giraffes' skin. People normally play it in groups of seven drums. Each one has its own voice. The larger one can make louder voice.

* skin 皮

◆Task 1 Read the sentence for 1 minute. (1分間、文を読む)

◆Task 2 Draw a picture with teammates. (チームで協力して絵を描く)

3 時限目「タンザニアの水問題を考える(3年英語)」

1 子どもの活動の流れ

- ① <導入>「毎日水をどのくらい使っているか?」クイズを出し、何人かに答えさせる。
- ② カンボジアの子どもたちが水汲みをしている様子や、その大変さについて書いてある教科書の本文を振り返る。
- ③ タンザニアの給水地域で撮った写真から、分かることや気が付いたことを共有する。(フォトランゲージ)

2 子どもの活動の成果・反応

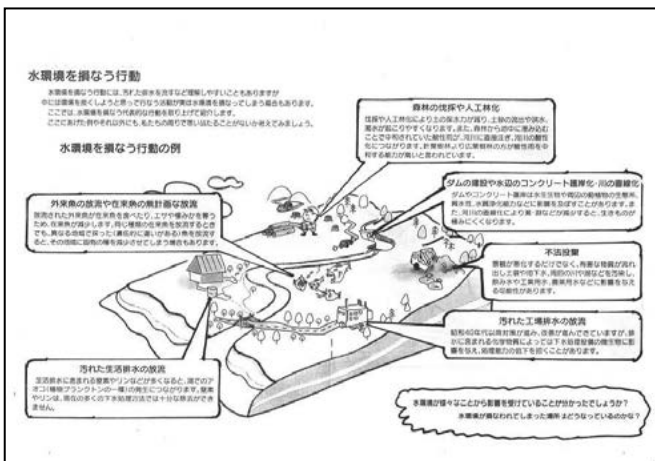
- ◇自分たちが無意識に大量の水を使っていることに驚いた様子が見られた。「水が出なかったらどうするか?」の質問に対して、ほとんどの生徒が「違う場所から持ってくる」「買う」という意見を出し、水がない生活を想像することは容易ではないようだった。
- ◇タンザニアの給水地域の写真を見た反応としては、水をタンクに入れて保存していることに驚いたり、給水時間が決まっていることに対して不便さを予想したりする生徒がいた。
- ◇道徳で学習した「水の流れ」のプリントを利用し、どのように家庭に届けられているのかを説明し、研修中に ZAWA で撮影した写真を見せた。

この時限のねらい

教科書で学んだカンボジアの水事情から、タンザニア抱える水問題について、その課題と解決策を考える。
自分たちは生活の中でどれだけ多くの水を使っているのかを知り、その大切さを理解する。

3 使用した教材

- <教材1>タンザニアの写真
- <教材2>道徳で使用した水の流れのプリント
- <教材3>教科書



Aya: Why are there two groups?
 Ms. Sarim: Well, we don't have enough teachers and classrooms, so we have to divide the students like that.
 Taku: What do the students do when they're not at school?
 Ms. Sarim: They usually help their families. For example, they carry heavy buckets filled with water from the well.
 Taku: That sounds tough.
 Ms. Sarim: Yes. Most of them want more time to study. They enjoy their lessons. And they know that their lessons are very important.



1 子どもの活動の流れ

- ① <導入>研修時のホームステイ先とキラカラ中等学校で撮った写真を見せ、気が付いたことや得たイメージを共有する。(フォトランゲージ)
- ② ワークシートを配布し、大切なものランキング「What is important for you?」を個人で作成する。(ダイヤモンドランキング)
- ③ グループをつくり、自分の作ったランキングと比較する。
- ④ ワークシートを使って「○○ is more important than △△.」の文法を書き、出来た英文をグループ内で順番に言い合って練習する。
- ⑤ 導入で紹介した写真を再度見せて、生徒が大切なものとして上位に挙げた水や電気が日本のように十分に行き渡っていないこと。経済的にも決して恵まれた状況ではないことを説明する。それでも「幸せそうに見えるのはなぜか?」と問いかけ、大切なものと幸せだと思ふこととの関係を考えるきっかけとして授業のまとめとした。

この時限のねらい

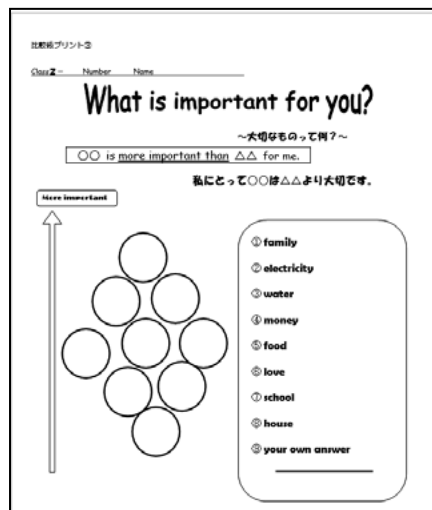
大切に思うものの価値観が人それぞれで違うということに気が付く。水や電気などタンザニアでは十分に普及していないが、そこで暮らす人々はどのように生活しているのかを理解し、自分たちの考える解決法を共有する。

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇導入で紹介した写真に対して、「思った以上に料理が豪華」「野菜を洗うのが楽しそう」という感想があがった。あるクラスでは「幸せそうに見える」と述べた生徒がいたので、「幸せとはどんなことか」という問いにつなげた。生徒にとって答えにくい質問であったようだが、生徒の中には「満たされていること」と返す者もいた。大切なものの上位は money(お金)と water(水)が多かった。自分で記入する欄には phone(電話)や books(本)、game(ゲーム)などの答えを挙げていた。
- ◇大切なものランキングでは、自分の順位をつける際に悩む生徒が多かった。また、自分とクラスメイトの答えが全く違うことに驚く姿も見られた。あまり話し合うことのないテーマであったので、人の答えに興味を持って取り組むことができていたように思う。
- ◇タンザニアの家庭や学校の写真を見て「なぜ幸せそうに見えるのか?」という問いかけに対して、「大切なものが違うから」という答えがあった。写真の家族に水や電気が十分にあれば、より幸せだと思うか?という質問には、生活が変わってしまって家族の団らんがなくなり、結果的には幸せになるとは言えないのではないかという考えを持つ生徒もいた。実際の写真を見せたことで、タンザニアの生活を身近に感じながら考えられたのではないかと思う。時間が足りず、途中で終わってしまったクラスもあったので、生徒から出た意見を広げて、考えを深めていきたいと感じた。

3 使用した教材

- <教材1>タンザニアの写真
- <教材2>ワークシート



5 時限目「タンザニアで頑張る日本人を知る(3年英語)」

1 子どもの活動の流れ

- ① <導入>タンザニアの教室の写真を見せて、日本の教室と違うところを挙げる。順番にあててポイントを与えるゲーム形式で行った。
- ② 教科書で学習した地雷除去のためにカンボジアで働く日本人の教材を学習する。
- ③ 既習の文法事項である現在完了を使った英語の文を読ませ、タンザニアで出会った2人の日本人を紹介する。内容理解の問題を出して、内容の確認をする。
- ④ 感じたことを共有してまとめとした。最後に専門家の長坂さんからのメッセージを紹介して授業を終えた。

この時限のねらい

タンザニアの水公社と電力供給公社で働く日本人の姿を伝えることで、自分が国際社会の一員として生きていくための将来を考えるきっかけとする。

日本とタンザニアの関係を知る。

2 子どもの活動の成果・反応

◇英語の文を読むことが苦手な生徒が多いが、実在の人物であることと情報が新しいことから、熱心に取り組む様子が見られた。

◇タンザニアで見かけた日本の国旗の写真を見せると、自分の知らなかったところでたくさんの日本人が働いていることやタンザニアと日本のつながりが深いことに驚いていた。

3 使用した教材

<教材1>タンザニアの写真(ZAWA と TANESCO)

<教材2>ワークシート



教科書 Unit2 Review Class _____ Name _____

The person who works in Tanzania!

★Read the sentence and answer the questions

He is the person who works for Tanzania. He has worked here for four years. His name is Jiro Nagasaka from Japan. His job is to train people in Tanzania. They are trained to get a skill and a knowledge about electricity.

He has got a lot of difficult things. Sometimes he has a hard time. It is not easy for him to make a training system from nothing.



6 時限目「世界がもし100人の村だったら(3年道徳)」

1 子どもの活動の流れ

- ① 「世界がもし100人の村だったら」の映像を見せる。
- ② 穴埋め式のクイズを出し、予想させる。
- ③ 答え合わせを兼ねて、写真やグラフを使って世界の現状に触れる。
- ④ この話は、パソコンのEメールによってアメリカで人から人へと伝わった話をもとに、調査や統計の数字を現実の数字にできるだけ近づけて作られたものだと説明する。
- ⑤ このメールにはどのような思いが込められているのか、また、返信するとしたらどのようなメッセージを書くのか、グループになって話し合いをさせる。
- ⑥ クラスで共有してまとめとする。

この時限のねらい

社会科の学習等を通して、世界の厳しい状況を知っているものの具体的に身近に感じている生徒は少ない。この教材を通して、世界と関わりを持とうとするだけでなく、積極的に世界の人々と関わっていこうとする気持ちを育てる。

2 子どもの活動の成果・反応

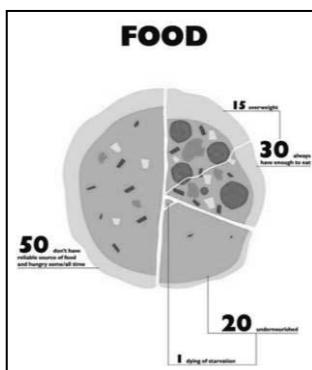
◇すでに話を知っている生徒もいたが、反応としては「自分たちには気が付かないところで、栄養不足で亡くなっている人がいることに驚いた」「食べ物が無い人がいるのに、日本に住んでいる私たちの周りではたくさんのお食料が捨てられている。分けることはできないのか。」「自分の環境が恵まれていることに気が付いた」という意見が挙がった。また、水についての学習をしていたことから安全できれいな水の重要性を指摘する感想も見られた。

◇まとめとして、このメールが回ってきたらどうするか？という問いに対して「少しでも多くの人に知ってほしいから自分も回す」「このメールが読める自分たちの状況が幸せである」という意見が挙がり、世界の現状を知るということの大切さを実感できた様子が見られたことはよかった。映像を入れたので、比較的理解しやすかったように思うが、もっと生徒から出た意見を膨らませて、解決策を考えさせるところまでつなげていきたかったので、時間をもっと取ることができるとよかった。

3 使用した教材

<教材1>世界がもし100人の村だったら (池田香代子著 マガジンハウス)

<教材2>ワークショップ版・世界がもし100人の村だったら 第4版(開発教育協会 発行)



1 子どもの活動の流れ

- ① <導入>キラカラ中等学校で撮影した写真を見せる。女子高であることや理数科目に力を入れていることなど、学校について説明を加える。タンザニアの教育システムについても簡単に触れた。
- ② マララ・ユフスザイのスピーチの映像を見せる。
- ③ 内容の確認をする。マララさんが世界に何を訴えたかったのかを挙げてもらい、共有する。
- ④ 英語の教科書で学習した、セヴァン・スズキのリオデジャネイロで開催された国連の「地球サミット」で行ったスピーチを振り返り、自分たちと同世代の少女たちが世界を変えようと行動していることを理解する。自分だったらどうするかということを考える。

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇道徳でマララさんの置かれた状況やスピーチを行うまでの背景についてまとめた映像を見ていたので、スピーチの内容も理解しやすかったように思う。教科書でちょうど「solution(結論)」という単語を学習したばかりであったので、マララさんのスピーチでキーワードとして捉えることのできた生徒も多かった。
- ◇壮絶な体験を持つマララさんについて、自分たちとかけ離れた存在として認識している生徒が多く、自分たちと同世代であることを知って驚いている姿が見られた。「勉強はきらいだが、その権利を奪われてしまっている生徒がいる。教育を受けられることは幸せだ」という感想も見ることができた。

3 使用した教材

<教材1> マララ・ユフスザイさんの国連でのスピーチ映像

この時限のねらい

自分たちと同世代のマララさんやセヴァンのスピーチを聞いて、自分たちが国際社会の一員として貢献できることを考える。

実際に現地で協力隊として働いた経験を聞くことで、自分の将来と国際協力を結びつけかけとする。

■ 全体を通して

1 授業の様子



<写真1> 黒板に予想図を書く。



<写真2> グループの絵が揃ったら実物で答え合わせをする。

2 参考文献・資料

- 1) 世界がもし 100 人の村だったら(池田香代子著 マガジンハウス)
- 2) ワークショップ版・世界がもし 100 人の村だったら 第4版(開発教育協会 発行)
- 3) わたしはマララ:教育のために立ち上がり、タリバンに撃たれた少女(マララ・ユフスザイ著 学研マーケティング)

水は本気でマジだった

実践場所	神奈川県	川崎市立川崎中学校	実践者	小野 恵子
対象	中学2年		時間数	2時間
担当教科	英語	実践教科	総合的な学習の時間	
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・タンザニアの水事情について知る。 ・自分ならどのような水を使いたいか考える。 			
実践内容	回	プログラム	備考	
	1	<ul style="list-style-type: none"> ●タンザニアの復習 ・スワヒリ語「水」 ●1日で使う水の量の確認 ●タンザニアの水事情1(島民の立場) <ul style="list-style-type: none"> ・フォトランゲージによる紹介 ●安全な水がないとどうなるのか、を確認する <ul style="list-style-type: none"> ★意見を交換&何人かに発表してもらう ●あなたが島民なら、どっちを選ぶ？ <ul style="list-style-type: none"> ・ZAWA と違法業者の特徴を説明 	フォトランゲージ素材 ・ZAWA 写真 ・現地の水道 ・ウォーターキオスク ・水宅配業 ・違法業者のタンク ・火傷の写真 ・お風呂の写真 ・トイレの写真	
2	<ul style="list-style-type: none"> ●タンザニアの水事情2(水道局の立場) <ul style="list-style-type: none"> ・ZAWA の事業の悪循環を確認する ・日本の援助者の紹介 ●悪循環を断ち切るために <ul style="list-style-type: none"> ・自分が日本から支援に来たとしたら、を考える (ダイヤモンドランキング) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> a. 配管マップを作って水道管の状態をチェックできるようにする。 b. 形の合った配水管を作る c. 料金の徴収の仕方を工夫する d. 24時間水が出るようにする e. ウォーターキオスクの数を増やす f. 違法業者を取り締まる g. 未納者への罰則を強化する h. 料金徴収や水の安全性についての PR に力を入れる </div> <ul style="list-style-type: none"> ★意見を交換&何人かに発表してもらう ●崎山専門家の話と行ってみて感じたこと <ul style="list-style-type: none"> ・百聞は一見にしかず ・知恵と知識は財産 ・水はマジでマジだった！ 			
成果	授業の感想には「日本からの支援者の方が悩むのも分かります。どこから直せばいいのかわからない」「日本の水がきれいだから考えたことがなかったけど、ありがたいんだ…って思った。」普段、生徒たちが意識することのない「水」について『マジ(本気)でマジ(水)』に考えた時間にできたかな、と手ごたえを感じた。			
課題	水を通して、日本はすごい国という実感を持たせた反面、タンザニアは水が出なかったり、使えなかったりすることがあって「不便」「大変」「かわいそう」、と無意識に生徒が感じてしまった面がある。その意識をどう変えていくか、が今後の課題である。			
備考				

[授業実践の詳細]

1 時限目「私、タンザニアに行きます」

1 子どもの活動の流れ

- ① 世界地図を描く。
- ② 自分の世界地図に、タンザニアの場所を記す。〈教材1〉
>
- ③ 「アフリカ」「タンザニア」から思いつく事を全て書く。
- ④ 私たちの普段の生活の中に見られるタンザニアとスワヒリ語を紹介。〈教材2〉

この時限のねらい

自分の世界観、アフリカのイメージを確認し、日本以外にも国があり、人が生活していることを知る。

2 子どもの活動の成果・反応

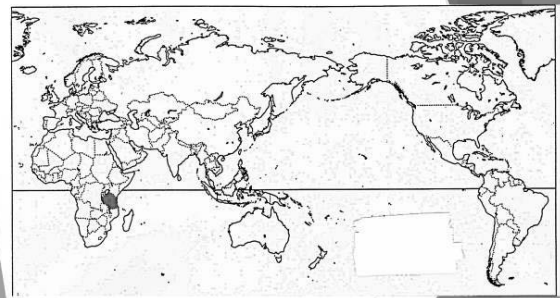
- ◇昨年度の社会の授業で世界地図の描き方の授業を行った成果あり、世界地図は描けたが、いざ、タンザニアがどこにあるか、となると作業の手を止めてしまう生徒が多かった。生徒の世界観が見えたと思う。
- ◇ディズニー映画『ライオンキング』の中にタンザニアの公用語であるスワヒリ語があふれていることを紹介し、タンザニアは遠いとは思っているけれど、意外と身近なのかもしれない、という感想が聞かれた。

3 使用した教材

〈教材1〉タンザニアを紹介するパワーポイント(抜粋・その1)

- ワークシートにやってみよう！
- ▶世界地図を描いてみよう！
地図帳を見てはいけません。
 - ▶タンザニアの場所を赤で塗ってみよう！

正解は・・・



〈教材2〉タンザニアを紹介するパワーポイント(抜粋・その2)

イモトも登った



キリマンジャロ

マサイ族もいるよ！！

ライオンキングのお陰で
意外と知ってるスワヒリ語 (タンザニアの国語)



▶ シンバ
=スワヒリ語でライオン



▶ ラフィキ
=スワヒリ語で友達

2

時限目「私の1日」

1 子どもの活動の流れ

- ①自分の自己紹介を簡単な英語で書く。〈教材3・左部分〉
- ②自分の1日の流れを振り返り、円グラフに色を塗る。
〈教材3・右部分〉
- ③円グラフの内容を簡単に一覧にする。
* 訪問する学校の生徒さんにお土産だという旨を伝えたいうえで作業に取り掛かる。

この時限のねらい

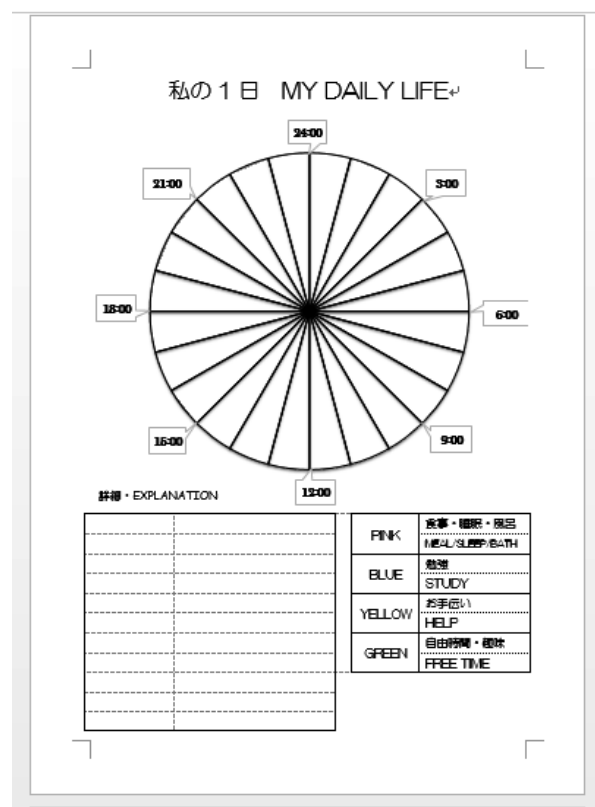
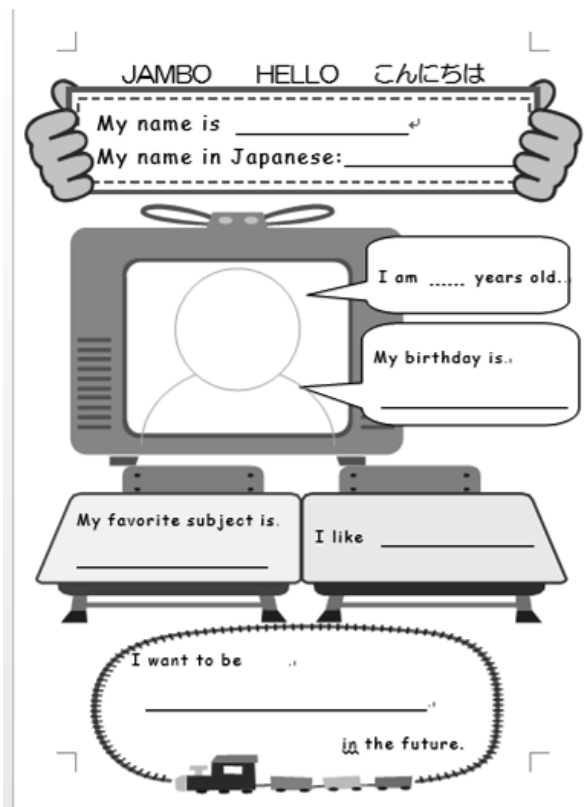
- ・自分の生活を振り返る。
- ・簡単な英語を使って、自己紹介をする。
- * タンザニアの生徒にも同じものを書いてもらい、後日比較する。

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇「タンザニアの生徒は英語がわかるのかな」「コレ読んだらどんな顔するかな」という声が聞こえてきた。また、「タンザニアに持っていくの?」と、自分が目の前にしているプリントが本当にタンザニアに渡ることと心配(少々疑い?)気味な生徒の声もたくさん聞こえてきた。
- ◇タンザニアで訪問する学校の生徒さんに、日本の中学生の生活を紹介したい! と楽しみながら取り組んでいる生徒が多かった。

3 使用した教材

〈教材3〉



* 下書き用と本番用と2枚作成。本番用を、稲村隊員が勤務するタンザニアのキラカラ中等学校に置いた。また、稲村隊員に協力していただき、同じものをキラカラ中等学校の生徒さんにも書いてもらった。下書き用とキラカラ中等学校の生徒さん版を6時間目の比較で使用。

3

時限目「タンザニア行ってみたらホントはこんなところだった！」

1 子どもの活動の流れ

- ① 一緒にタンザニアに旅行に行くという設定で、撮ってきた写真を通してタンザニアに住む人々の今の生活を見る。
- ② 抜粋したタンザニアの写真を見て、何をしているところか予想し、ワークシートに記入する。〈教材4〉
- ③ 予想を発表してもらったところで、正解を発表する。
- ④ 1時間目を書いてもらったタンザニアに対するイメージを思い出し、実際と比べてみてどうだったか感想を聞く。

この時限のねらい

- ・タンザニアを身近に感じてもらう。
- ・タンザニアの人の今の生活を知る。
- ・世界には多様な文化があることを知る。

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇1つ目の写真では、「電車を待っている」「レストラン」など、様々な予想が飛び交う中、ザンジバル島への入国写真だと説明すると、同じ国の中で入国があるのが不思議そうであった。
- ◇2つ目の写真のヘナアートはイスラム教徒の女性のおしゃれの1つですよ、と説明すると、日本の刺青に近いものという認識からか真っ青になって、「痛かった？」という質問が口々に出てきた。(漆を肌に染み込ませているだけなので、痛くはないが、漆が乾くまでは不自由。)
- ◇アフリカ・タンザニアと聞くと、とても遠い世界だと漠然と考えていた生徒が多かったようだが、タンザニアの写真に見慣れた教師が写っているので、「本当に行ける場所なんだ」とつぶやいている生徒がいた。以前よりは身近に感じてもらえたと感じた。

3 使用した教材

〈教材4〉

2014/2/24 観音寺ワークシート

タンザニア行ってみたらこんなところだった！！

姓 名

(生徒の記入例)

① 電車を待っている 正解は… > 国境付近	食堂? A. 入国手続きしている所 入国している所
② 水が入っている。黒い90°の中 正解は… 水のタンク 水タンク、1つは水が溢れかたかたかたか	A. 水タンク 食料がタンクの中に入っている A. 水タンク
③ 水が入っている。黒い90°の中 正解は… 水のタンク 水タンク、1つは水が溢れかたかたかたか	サイクリング

4-5 時限目「水は本気でマジだった」

1 子どもの活動の流れ

- ① スワヒリ語ミニ講座<教材5>
- ② 1日の水の使用量の確認 <教材6>
- ③ フォトランゲージによるタンザニアの水事情1(島民の立場)紹介<教材7>
- ④ 安全な水がないとどうなるのか、意見を交換&発表する。
- ⑤ ZAWAと違法業者の特徴を説明し、自分が島民なら、どちらを選ぶかを考える。<教材8>
- ⑥ フォトランゲージによるタンザニアの水事情2(水道局の立場)紹介<教材9>
- ⑦ ・自分が日本からザンジバル島の水道局に国際支援をしに来たとしたら、を(ダイヤモンドランキング)考え、意見を交換&発表 <教材10>

この時限のねらい

- ・タンザニアの水事情について知る。
- ・私たちの生活と水について考える。
- ・国際支援について知る。

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇「日本からの支援者の方が悩むのも分かります。どこから直せばいいのかわからない」「タンザニアの島で日本人が(国際支援を)がんばっているのがすごい」「日本の水がきれいだから考えたことがなかったけど、ありがたいんだ…って思った。」といった感想から、日本で生活する中で、蛇口を捻れば水が出てくるのは当たり前なことだが、それが当たり前ではない場所もある！そして、そこで支援をする日本人がいるという事実が伝わったと思う。
- ◇日本の良さや水について真剣に考えた反面、タンザニアが「不便」「大変」「かわいそう」という考えが無意識に生徒に生じてしまった面がある。国際支援の上での対等な関係である必要性など、国際支援そのものについてを深めていく事が今後の課題である。

3 使用した教材

<教材5>『水は本気でマジだった』パワーポイント抜粋(その1)

じゃあ、水はスワヒリ語で??

3択です。

- ▶ ウソ
- ▶ ホント
- ▶ マジ

じゃあ、水はスワヒリ語で??

マジ

<教材6>『水は本気でマジだった』パワーポイント抜粋(その2)

振り返ってみよう！

Q. あなたは1日にどのくらい水を使っているのでしょうか？
ワークシートに記入してみよう！

周りの友達と相談してもOKです。

1日に使う水の平均量

日本 タンザニア
▶ 372.6ℓ ▶ 41.1ℓ

その差、約10倍！！

(生徒の記入例)

★一日にあなたはどのくらいの量の水を使っているでしょうか。予想してみよう！！

項目	量	項目	量
のび	4	はみがき	1.2
風呂	30		
せんたく	40		
トイレ	12	合計	107.2

★一日にあなたはどのくらいの量の水を使っているでしょうか。予想してみよう！！

項目	量	項目	量
トイレ	150ℓ		
バスルーム <small>(お風呂)</small>	250ℓ		
洗濯機	80ℓ		
掃除	20ℓ	合計	500

<教材7>『水は本気でマジだった』パワーポイント抜粋(その3)

水道はある！！



水道からいつでも水が出ないと、
どんなことが起きるでしょう？

▶ワークシートに記入してみましよう

(生徒の記入例)

★水が出ないとどんなことが困る？

不潔になる！！ (トイレ
お風呂
はみがき)
病気になる (手は洗えないから
かぶさるから)

★水が出ないとどんなことが困る？

手が洗えない。使いたいときに使えない。水が飲めない。
死んでしまう。いづろかわからないから、じゃくちをあけて、はにするから、ムダ使いになる。

<教材8>『水は本気でマジだった』パワーポイント抜粋(その4)



島民の意見

女性島民: ZAWAの水は安全なので、助かります。子どもはまだ小さいので、安心して使える水が一番です。

女性島民: ZAWAの水はしょっちゅう断水するので、お金を払うのをやめました。違法業者の水は高いけれど、いつも使えるし便利です。

男性島民: 家に水道が無いので、毎日、ウォーターキオスクで水を買いに行っています。

女性島民: 水くみは女性の仕事、手伝ってくれる男性はほとんどいません。子どもにも手伝ってもらわなければならないので手帳に行けない日もおきます。

	ZAWA	違法業者
料金	安い	高い
安全性	高い	低い
利便性	よく断水する	24時間&お湯OK
サービス	家に水道を引いてもらえる	自分で黒いタンクを用意

(生徒の記入例)

住民の意見

ZAWAの水は安全なので、助かります。子どもはまだ小さいので、安心して使える水が一番です。

女性島民: ZAWAの水はしょっちゅう断水するので、お金を払うのをやめました。違法業者の水は高いけれど、いつも使えるし便利です。

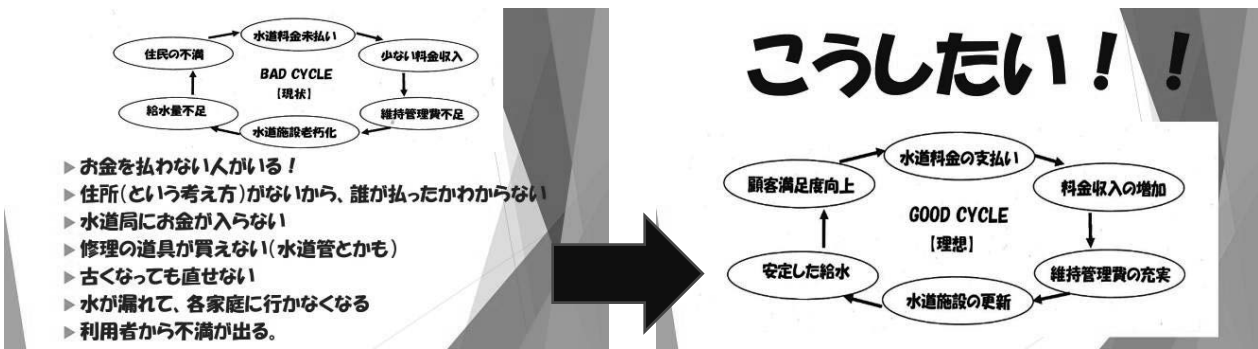
男性島民: 家に水道が無いので、毎日、ウォーターキオスクで水を買いに行っています。

女性島民: 水くみは女性の仕事、手伝ってくれる男性はほとんどいません。子どもにも手伝ってもらわなければならないので手帳に行けない日もおきます。

ZAWA 違法業者

水が多く使えるから
24時間使えるから
安全性が高いから
値段が安いから
お湯が使えるから
その他

<教材9>『水は本気でマジだった』パワーポイント抜粋(その5)



<教材10>

重要度【高】

重要度【低】

- 配管マップを作って水道管の状態をチェックできるようにする。
- 形の合った配水管を作る
- 料金の徴収の仕方を工夫する
- 24時間水が出るようにする
- ウォーターキオスクの数を増やす
- 違法業者を取り締まる
- 未納者への罰則を強化する
- 料金徴収や水の安全性についてのPRに力を入れる
- 利用者のマップを作って、顧客管理を工夫する

6-7 時限目「くらべてみよう！私の1日」

1 子どもの活動の流れ

- ① タンザニアの生徒の自己紹介を読む。
- ② タンザニアの生徒と自分の1日のタイムスケジュールをグラフにする。
- ③ 2つのグラフ(生活)の似ているところ、違うところを見つけ、英語で表現する。

この時限のねらい

- ・タンザニアの生徒の自己紹介を読み取る。
- ・タンザニアの生徒の1日を知る。
- ・タンザニアの生徒と自分の1日を比較し、自分の生活を振り返る。

2 子どもの活動の成果・反応

◇7月(2時間目)に取り組んだプリントと全く同じフォーマットで、タンザニア・モロゴロにあるキラカラ中学校から送ってもらったので、食い入るように見ている生徒が多かった。英語に苦手意識を感じている生徒も、何が書いてあるのか、根気良く取り組む姿が印象的だった。タンザニアの現状や、全寮制の学校という環境、宗教の違いなど、生徒それぞれが異文化理解を深める時間になった。

3 使用した教材

<教材11> (生徒の記入例)

Tanzanian Student's Daily Life
Step 1 Reading タンザニアの生徒さんの情報を読み取り、英語と日本語で書きましょう。

	English	日本語
Name	CHRISTINA KASIMBA	クリスティーナ
Age	16 years.	16才
Birthday	23. December.	12月23日
Favorite Subject	biology	生物学
Things the Person Likes	helping people.	人を助けること。
Dream in the Future	Doctor	医師(医者)

Step 2 Reading タンザニアの生徒さんの1日と自分の1日のグラフから、比較してみましょう。

Tanzania (The Student's Daily Life) Japan (My Daily Life)

日本と比べて	時間	項目	時間	タンザニアと比べて
2時間早い	5:00	起床時間 get up	7:00	2時間おそい
20分早い	7:00	朝食 have breakfast	7:20	20分おそい
30分早い	7:30	学校に入る時間 go to school	8:00	30分おそい
30分早い	6:30	夕食 have dinner	7:00	30分おそい
早い	4:30	勉強(自習) study	8:00	おそい
45分おそい	10:45	就寝 go to bed	22:00	45分早い
3時間早い	19:00	自由時間	21:00	3時間おそい
1時間おそい	20:00	自由時間	19:00	1時間早い

Tanzanian Student's Daily Life
Step 1 Reading タンザニアの生徒さんの情報を読み取り、英語と日本語で書きましょう。

	English	日本語
Name	PENDO	ペンドウ
Age	15	15才
Birthday	11st May	5月11日
Favorite Subject	Mathematics	
Things the Person Likes	watching movies.	映画を見ることが
Dream in the Future	Engineer.	技術者

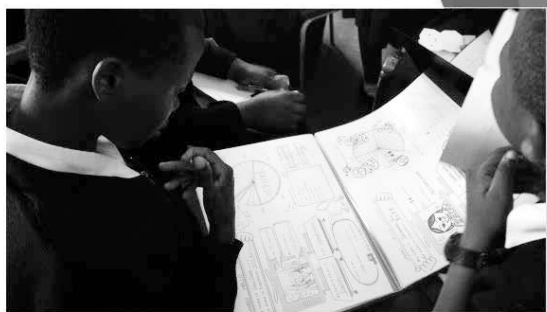
Step 2 Reading タンザニアの生徒さんの1日と自分の1日のグラフから、比較してみましょう。

Tanzania (The Student's Daily Life) Japan (My Daily Life)

日本と比べて	時間	項目	時間	タンザニアと比べて
早い	5:00	起床時間 get up	7:30	遅い
遅い	10:00	朝食 have breakfast	7:35	早い
早い	6:30~	学校に入る時間 go to school	8:00~	遅い
10分早い	19:00	夕食 have dinner	19:30	10分遅い
多い	20:00	勉強(自習) study	x	少ない
早い	23:00	就寝 go to bed	1:00	遅い
早い	8:00	起床	11:30	遅い
遅い	15:00	自由時間	12:30	早い

■全体を通して

1 授業の様子



2時間目に取り組んだ「わたしの1日」のプリントを見る、キラカラ中等学校の生徒



4・5時間目の「水は本気でマジだった」で、ダイヤモンドランキングをし、意見交換をする中学生



6・7時間目にキラカラ中等学校の生徒の1日のプリントを読み、比較する中学生

2 参考文献

- 1) 開発教育協会 『開発教育実践ハンドブック 参加型学習で世界を感じる[改訂版]』 2012年 開発教育協会
- 2) 開発教育協会 『日本と世界の水事情「水から広がる学び」アクティビティ20』 2014年 開発教育協会
- 3) プラン・ジャパン『Because I am a girl』

きれいな水がもたらす世界 —援助の在り方について考えよう—

実践場所	神奈川県	陸上自衛隊高等工科学学校	実践者	古澤 京子
所属対象	神奈川県立横浜修悠館高等学校 3年生(国際専修コース) ※備考参照		時間数	7時間
担当教科	英語		実践教科	英語表現
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・ タンザニアの水問題を知り、解決に向けた話し合いを通じて、途上国援助の在り方を考える。 ・ 自分の意見を英語で表現する。 ・ タンザニアの言語文化に目を向け、多言語文化に興味を持つ。 			
実践内容	回	プログラム		備考
	1	【Kwa upendo kutoka Japan-フォトレーターと格言カードを贈ろう！-】 ・ タンザニアの高校生に手紙を書く。 ・ 日本語の格言紹介カードを作る。		事前学習
	2	【Karibu Tanzania!-タンザニアってどんなところ?-】 ・ 写真からタンザニアの実情を知る。		フォトランゲージ
	3	【MAJI(水)の足りない生活について考えよう】 ・ 開発途上国の水が足りない生活を理解する。 ・ 日本の水問題に目を向ける。		
	4	【タンザニアの MAJI(水)について考えよう-住民の立場から-】 ・ ザンジバル島の水問題を住民の立場から考える。 ・ ザンジバル島の水問題を解決するための方法を考える。		ロールプレイ
	5・6	【タンザニアの MAJI(水)について考えよう-ZAWA の立場から-】 ・ ザンジバル島の水問題を解決するために日本人として何をすべきかグループで話し合う。 ・ 途上国援助にはどのようなものがあるか知る。		ランキング ※ZAWA…(ザンジバル水公社)
	7	【タンザニア ショートエッセイコンテスト】 ・ 自分の意見を英語で書く。		
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 途上国援助について段階的に自分の考えがまとまるプログラムにしたので、自分の意見を英語で表現したいという動機付けになった。 ・ 毎授業でグループワークを取り入れたことで、積極的に意見交換をする雰囲気を作れた。 			
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全体を通じて話し合いが活発になった。生徒から出た意見をより上手くまとめて授業が進められるよう、ファシリテーターとしての技術を向上させる必要があると感じた。 ・ 国際専修コース以外の生徒への実践も取り入れたい。 			
備考	陸上自衛隊高等工科学学校とは、陸上自衛官となる者を養成するための防衛省所管の陸上自衛隊の組織である。また、生徒に高校卒業資格を取得させるために、神奈川県立横浜修悠館高等学校と提携している。			

[授業実践の詳細]

1 時限目「Kwa upendo kutoka Japan ―フォトレーターと格言カードを贈ろう！―」

1 子どもの活動の流れ

① フォトレーターを作る

「タンザニアの高校生へのメッセージ」というテーマで、色画用紙に自己紹介や日本文化を紹介する文章を英語で書く。完成したカードを持って写真を撮る。

② 格言カードを作る

名刺サイズのカードの表面に「好きな日本語の格言(ことわざ・四字熟語)」を漢字で、読み方をローマ字で書く。裏面にその格言の意味を英語で書く。

③ タンザニアについて知りたいことや現地で調べてきてほしいことをアンケート用紙に記入する。

この時限のねらい

- タンザニアという国とその国の言語文化に興味を持つ。
- 学習した自己紹介や日本文化を紹介する表現を使って、英文を書く。

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 生徒に伝えるタンザニアの情報をあえて少なくしたことで、生徒の想像力を膨らませることが出来た。(事前に伝えた情報は①タンザニアの国語はスワヒリ語、公用語は英語である ②スワヒリ語文化を非常に重んじていて、格言を日常生活でも多用している という2点のみ。)そのため、地図帳や辞書を使って、自分でタンザニアについて調べようとする生徒も多かった。
- ◇ 「国語と公用語が違う」という異文化に興味を持ったようで、英語だけでなくスワヒリ語も使って、フォトレーターを作成していた。また、漢字の意味を説明したり、日本で人気のキャラクターを紹介したりする生徒もいた。タンザニアに目を向けるだけでなく、日本文化を再考させる機会となった。

3 使用した教材

<教材1>色画用紙、名刺サイズのカード

<教材2>アンケート用紙(自作プリント)

<教材3>テキスト『Planet Blue Writing Navigator』 旺文社

<教材4>宮城裕見子『旅の指さし会話長60 ケニア』第4刷 2012年、情報センター出版局(一部コピー)

<成果物>フォトレーター、格言カード(p.8に掲載)

(注) Kwa upendo kutoka Japan 「日本より愛をこめて」という意味のスワヒリ語

1 子どもの活動の流れ

① タンザニアの概要について知る

- ・ 白地図でタンザニアの位置を確認する。
- ・ タンガニーカ(本土)とザンジバル島の関係性を知る。
- ・ スワヒリ語の挨拶を学ぶ。
- ・ ティンガティンガ(伝統的アート)やカンガ(スワヒリ語が書かれた日用品の布)など、現地の文化を知る。

② 現地の人々の生活を知る

- ・ キラカラ女子中等学校の様子から、教育についてを知る。
- ・ 市場や食事の写真から、食文化を知る。
- ・ 経済の中心・ダルエスサラームと郊外の様子を比較し、地域間格差が大きいことを知る。
- ・ ホームステイ先や街中の写真から、現地のインフラ(電気・道路・水道)の状況を知る。

③ 現地で働く日本人について知る

- ・ 現地で働く日本人の活動内容を知る。また、タンザニアについて思うことや仕事への思いを聞く。

この時限のねらい

○ フォトランゲージを通じて、

- ① タンザニアという国とその文化に興味を持つ。
- ② 現地の人々の生活を知る。
- ③ 現地で働く日本人の活動や思いを知り、海外で仕事をすることをイメージする。

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 渡航前に実施したアンケートで質問が多かった「食生活」「電気事情」「高校生の生活」に関する写真を中心に見せたので、興味深く聞いていた。「アフリカ＝貧しい、物資が乏しい」というイメージが強かったらしく、発展するダルエスサラームの様子や最新の携帯電話には、特に反応があった。
- ◇ キラカラ女子中等学校の様子は、同年代で同じ全寮制の学校であるため、親近感を持ったようである。物理の板書が全て英語で書かれているのを見て、「すごい」「レベルが高い！」と非常に驚いていた。
- ◇ 日本について認知度が低いことを紹介すると、生徒たちには意外だったようである。(ピカチュウやドラえもんは現地では知られていなかった。)ふりかえりでは「ちょっと残念だけど、自分たちもタンザニアについて詳しく知らないから、仕方ないかもしれない」という感想があった。

3 使用した教材

<教材1>Kwa upendo kutoka Tanzania-With Love from Tanzania-第1回 (自作プリント)

<教材2>写真(2L サイズ)

<教材3>ティンガティンガ、カンガ

(注) Karibu Tanzania 「ようこそタンザニアへ」という意味のスワヒリ語

1 子どもの活動の流れ

① 1日にどれくらい水を使っているか調べる
宿題としてある日使った水の用途を調べてくる。それぞれの用途で1回に使用する水の量を知り、普段の生活で使っている水の量を計算する。

② タンザニアと日本の水の使用量の違いを知る
1人が1日に使える生活用水の量を知る。(日本:約370ℓ、タンザニア:約40ℓ)日本での生活が、いかに水に不自由しないかを実感する。

③ 安全な水へのアクセスを知る

安全な水にアクセスできない人は世界約7億8千万人であり、その多くがアフリカの人々であることを知る。また、安全な水が得られないことは、子どもが教育を受けられない、女性の社会進出が遅れるなど、様々な社会問題を引き起こしていることを知る。

※ 安全な水へのアクセス…安全な水が手に入る整備された水道や井戸から住居が1km以内でない、またはひとり1日20ℓの水を確保できないこと

④ 国内の水の問題に目を向ける

日本国内にも水の問題があることを知る。(例:大分県豊後高田市の限界集落で住民が水を得ることが難しい状況にある、まもなく全国の水道管が耐用年数を迎え、各地で水道管破損の可能性がある)

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 普段使っている水の量と、タンザニア人が使える生活用水の量を比較した際、「これじゃあ生活できない!」「毎日お風呂は無理だね」という感想が聞こえた。水の足りない状況を実感として持たせることが出来た。
- ◇ 日本の水道普及率が97.5%と説明した際、自宅に水道を引いていないという生徒(鹿児島県出身)がいることが分かった(近くの湧き水から水を引いているとのこと)。「水が出なくなることはないの?」「周りの家も同じように水道にお金がかかっていないの?」など生徒間で質問が飛び交っていた。
- ◇ ふりかえりでは「タンザニアの人は大変だと思った」「日本に生まれて良かった」という感想が目立った。今後の授業で途上国と生徒自身との関わり方を考えさせ、世界で起こっている問題に対して無関心でない生徒を育てていくことが課題であると感じた。

3 使用した教材

<教材1>Kwa upendo kutoka Tanzania-With Love from Tanzania-第2回 (自作プリント)

<教材2>Think Daily 2012年10月4日記事 [p.8参考文献(5)参照]

この時限のねらい

- 水が足りない生活とはどのようなものか実感する。
- 水が足りないことで引き起こされる問題を理解する。
- 日本国内にも水問題があることを理解する。

4 時限目「タンザニアの MAJI(水)について考えよう～住民の立場から～」

1 子どもの活動の流れ

- ① 違法な水の売買や盗水があることを知る。
- ② 違法業者と ZAWA の水の違いを知った上で、違法業者と ZAWA のどちらから水を買うか決める。
【ZAWA】安くて安全だが、断水が多く、給水量が少ない
【違法業者】値段は ZAWA の5倍で安全性も低い、24時間使える
- ③ 住民カード(「ムサさん(政府役人)」「アリさん(ZAWA 職員)」「ハフィさん(ドライバー)」の3種類)から1枚を引いて、その住民の立場になって、違法業者と ZAWA のどちらから水を買うか決める。
- ④ 違法業者や盗水が起こる原因を知り、解決策を考える。

この時限のねらい

- ザンジバル島が抱える悪循環が水問題とその原因を知る。また、その解決に向けた方法を考える。
- 個人の立場だけでなく、住民の立場になって水問題を考える。

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 「海水や人糞処理の甘い、違法業者の水を使うなんて無理」という ZAWA 派と、「よく断水する ZAWA にお金を払うのは嫌だ」という違法業者派の主張は大きく分かれた。また、住民の立場で考えるロールプレイでは、設定上、子どもの人数が同じでも「子どもの健康を考えて ZAWA の水を買う」という生徒と「子どもが多いから、水がたくさん必要なので違法業者から買う」という生徒がいた。授業時間をさらに確保した上で、本内容についてディスカッションをすることも出来ると手応えを感じた。
- ◇ ふりかえりでは「水がちゃんと出ないなんておかしい。ZAWA はもっと努力すべきだと思った」という意見も出た。本授業は、次回授業(ZAWA の立場から水問題を解決するために話し合う)への導入編と位置づけていたので、期待通りの反応が得られた。

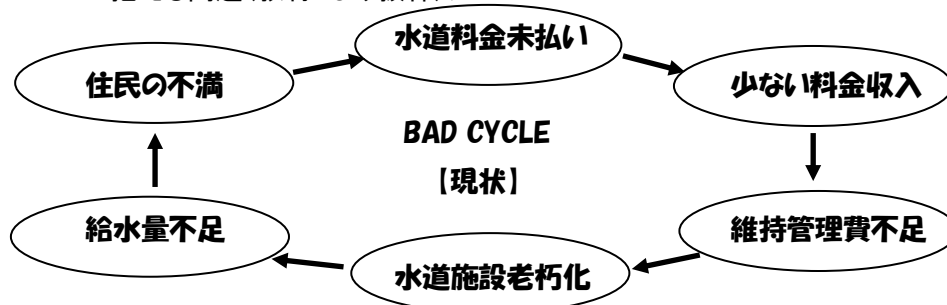
3 使用した教材

<教材1>Kwa upendo kutoka Tanzania-With Love from Tanzania-第3回 (自作プリント)

<教材2>ザンジバル住民カード (自作教材)

<教材3>写真(A4サイズ)

<ZAWA が抱える問題(教材1より抜粋)>



5-6 時限目「タンザニアの MAJI(水)について考えよう～ZAWA の立場から～」

1 子どもの活動の流れ

- ① 前時に ZAWA の問題を解決するための方法としてどのようなものが挙げられたかを知り、優先順位を付ける。
- ② ZAWA に派遣された日本人スタッフという設定でグループディスカッションをして、ZAWA の問題を解決するための方法に優先順位を付ける。
- ③ グループの意見を発表する。

この時限のねらい

- ザンジバル島の抱える水問題を水公社の立場から考える。また途上国援助は、優先順位をつけて取り組まなくてはならないことを知る。
- 人材育成や技術提供も途上国援助であることを知る。

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ どのグループも非常に活発な話し合いをしていた。「お金がないと何も始まらない」「住民の理解を得るのが先」「いずれ水道が整備されるなら、ウォーターキオスクは要らなくなる」「今、困っている人にはキオスクに水を買いに来たいと思う」など、様々な観点から意見を出していた。
- ◇ 「まったく正反対の意見が出たので、両方発表したい」という積極的なグループもあった。ディスカッションを通して、異なる立場の意見をまとめる難しさを実感させることができ、ねらい以上の成果があった。
- ◇ ふりかえりでは「日本のやり方を受け入れるかどうかは、ザンジバルの人たちに委ねた方が良い」という意見や、「ZAWA を国営化に戻す」「違法業者と技術協力する」など選択肢以外の方法も挙げられた。

3 使用した教材

<教材1>Kwa upendo kutoka Tanzania-With Love from Tanzania-第4回 (自作プリント)

<教材2>写真(A4サイズ)

<ZAWA の問題を考える9つの方法(教材1より抜粋)>

- (a) 配管マップを作って、配水管の状態をチェックできるようにする
- (b) 形の合った配水管を作って、無収水を減らす
- (c) 料金徴収の仕方を工夫する
- (d) 料金体系を見直す(家族の人数や世帯年収によって料金を変える)
- (e) 未納者に対する罰則を強化する
- (f) ザンジバル政府と協力して違法業者を取り締まる
- (g) 顧客管理の仕方を工夫する(住民が住んでいるマップを作る)
- (h) 住民への料金徴収の広報活動や、水の安全性についての啓蒙活動に力を入れる
- (i) ウォーターキオスクの数を増やす

<成果物>グループディスカッションで生徒が作成したランキング(p.8に掲載)

7 時限目「タンザニア ショートエッセイコンテスト」

1 子どもの活動の流れ

- ① 以下のテーマから1つを選択し、自分の意見を英語で書く。
＜テーマ1＞ザンジバルの水問題を解決するためにすべきこと
＜テーマ2＞開発途上国への経済支援に対する是非
- ② 日本人教員とALT(外国人教師)に英文をチェックしてもらう。

この時限のねらい

- これまでに学習した英文法とパラグラフライティングの知識を使って、タンザニアや途上国についての意見を英語で表現する

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ これまでの授業を通じて、生徒一人ひとりがテーマについて自分の考えを持っていたようで、意欲的に課題に取り組んでいた。
- ◇ テーマ1に関しては、前時に挙げた9つの方法以外の提案も多く挙がった。しかし、テーマ2に関しては賛成意見が大多数であった。もっと時間をかけて経済支援以外の途上国援助について考える必要があった。
- ◇ 自分の表現したいことをうまく英訳出来ず、本来の自分の意見を変えて英文を書いてしまった生徒が何人か見られた。十分な活動時間を設けた上で、各自の意見をまとめられるように指導にあたる必要があると感じた。

3 使用した教材

＜教材1＞Kwa upendo kutoka Tanzania-With Love from Tanzania-第5回（自作プリント）

＜教材2＞テキスト『Planet Blue Writing Navigator』 旺文社

＜生徒が書いた英文(テーマ1)＞

In order to solve the water problems in Zanzibar, developed countries such as Japan should help developing countries such as Tanzania. I have two reasons I think so. First, the government of Tanzania owns no money to use for their water problems. Second, the people of Zanzibar have a low level of concern about water for their health, and have no power to overcome their problems. Their income is low, so they must gain more money. Zanzibar, Tanzania has no money and no power to help them. Thus, developed countries have to help them with money.

(訳: ザンジバルの水問題を解決するために、日本など先進国はタンザニアのような途上国を助けるべきだと思います。理由は2つあります。まず、タンザニア政府には水問題に使うお金がありません。また、ザンジバルの人々は水の健康への影響について関心が低く、問題を克服する力を持っていません。彼らの収入は低く、もっとお金を得る必要があります。タンザニアのザンジバル政府には住民を助けるお金と力がありません。だから、先進国はお金で彼らを助けるべきです。)

<生徒が書いた英文(テーマ2)>

I agree with the idea of giving financial aid to developing countries to support them. First, there are many poor people in developing countries. If we support these countries, their lives may be improved. Second, Japan is richer than developing countries. It's our duty to share our riches with the people in developing countries. It is true that developing countries depend on developed countries. However, we should help them until they become rich. For these reasons, I think we should give financial aid to developing countries.

(訳: 私は途上国への経済支援に賛成です。まず、途上国には貧しい人がたくさんいます。もし私たちが途上国を助ければ、彼らの生活は改善します。次に、日本は途上国より豊かです。途上国の人たちと私たちの富を共有するのは、私たちの責務です。たしかに、途上国は先進国に頼っています。しかし、彼らが豊かになるまで、私たちは援助すべきです。こうした理由から、私は途上国への経済支援に賛成します。)

■ 全体を通して

1 授業の様子

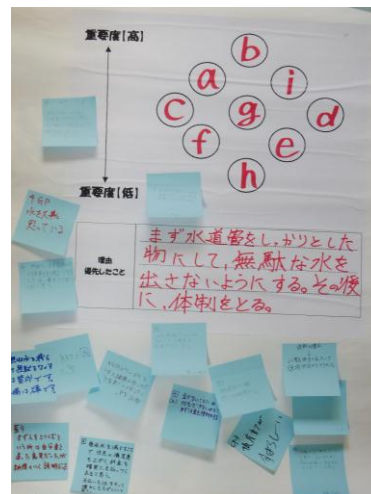
<写真1> フォトランゲージ



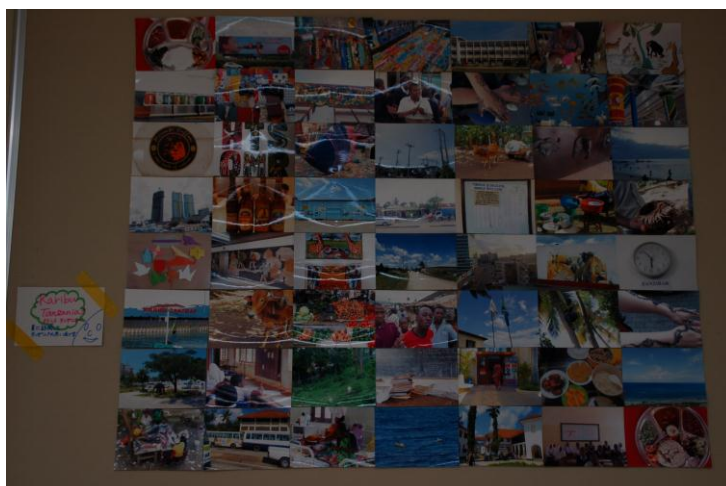
<写真2> 格言カード



<写真3> グループディスカッションのランキング



<写真4>教室に掲示したタンザニアの写真



2 参考文献・資料

- 1) 特定非営利法人開発教育協会(DEAR)『開発教育・環境教育教材 日本と世界の水事情 水から広がる学び アクティビティ20』2014年、特定非営利法人開発教育協会(DEAR)
- 2) 特定非営利法人開発教育協会(DEAR)『開発教育実践ハンドブック 参加型学習で世界を感じる[改訂版]』2012年、特定非営利法人開発教育協会(DEAR)
- 3) 宮城裕見子『旅の指さし会話長60 ケニア』第4刷 2012年、情報センター出版局
- 4) アフリカ理解プロジェクト www.africa-ricai.net
- 5) 『限界集落の解決方法で国内外の水問題が解決できる』 Think Daily 2012年10月4日記事
<http://www.thinktheearth.net/jp/thinkdaily/news/water/1007kansokuroka.html>

以上

産業構造の変化を学び、途上国の経済発展を考える

実践場所	県	神奈川県	実践者	古屋 唯生
対象	高等学校(普通科)1学年		時間数	6時間分の授業(50分×6回)
担当教科	地理・歴史・公民		実践教科	公民(現代社会)
ねらい	国際理解教育の一環として、発展途上国の事例から発展と開発・支援のあり方について考察させ、経済・景気を学習した上で、生徒の ODA への興味関心を醸成する。			
実践内容	回	プログラム		備考
	1	定期試験により、経済活動、景気、経済成長と GDP の範囲の総括 (報告割愛)		※授業ごとにパワポを使用 ブータン編(GNHを考える)
	2	GDP(国内総生産)と GNH(国民総幸福量)ブータンと OECD からみた日本(報告割愛)		
	3	産業構造の変化を学び、途上国の経済発展を考える.1		
	4	産業構造の変化を学び、途上国の経済発展を考える.		ルワンダ編(紛争の原因)
	5	開発をテーマに具体的事例から開発を考える (教師海外研修を通したライフラインの普及 ～ザンジバル水事業 ZAWA の紹介～)		
	6	教科書(帝国書院、現代社会 P158～161)を総括 (報告割愛)		
		※なお、使用教材の量・内容・教科の独自性の関係上、報告中での使用教材とは、その抜粋を一例として添付させていただくものとする。		タンザニア編(発展とは何か)
				
成果	生徒が途上国の開発・発展を産業構造の変化の過程と、日本の近現代の産業構造の変化の歴史を比較したうえで、第二次産業の中心である製造業の発展が重要であることを認識した。			
課題	限られた授業時間と教員間の共通内容に、国際理解を盛り込んでいきたいが、現状は改善の余地が多い。生徒の興味関心を引き出したものの、途上国理解にはさらなる時間を要する。			
備考	本校のボランティア部において、授業を発展させるための取り組みを顧問として継続、研修先タンザニアへのエコ意識・衛生意識の改善を生徒が主体的に取り組める計画を実践中。			

[授業実践の詳細]

3 時限目「産業構造の変化を学び、途上国の経済発展を考える.1」

1 子どもの活動の流れ

- ① 漁業の体験を A3 パウチ紙芝居に演じる。そこから見えてくるも。大昔から続く第一次産業の魅力と現在の日本。
- ② 発展とは何だろう。その一例として、世界共通の事項である経済における産業構造の高度化を日本の明治以降の歴史的流れをパワーポイントで視覚的にわかりやすく紹介していく。
- ③ 先進国の発展を考える場合、その国の風土とある程度の折り合いをつけ、時間をかけてきた歴史があることを認識。その中で、あらゆる分野において、人材育成が戦前・戦後の日本においても行われてきた背景があることを認識する。
- ④ 途上国の経済発展はどうだろうか。グループ討議にて考える時間を大切にする。教科書におどる語句「モノカルチャー経済・南北問題・南南問題・人口ピラミッドから見える世界等」から途上国の共通した課題は諸分野の人材育成ではないかという展開で授業をまとめていく。

この時限のねらい

発展とは「ものごとがより進んだ段階に移ること」とある。近現代史をふりかえっても産業・経済の発展には、第二次産業の要である製造業の成熟が欠かせない。サービス業中心の第三次産業の急激な広がりには途上国にどう作用しているのか

2 子どもの活動の成果・反応

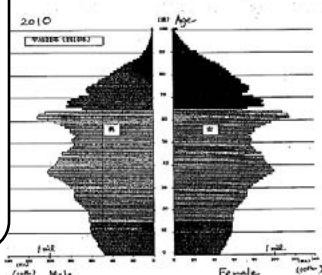
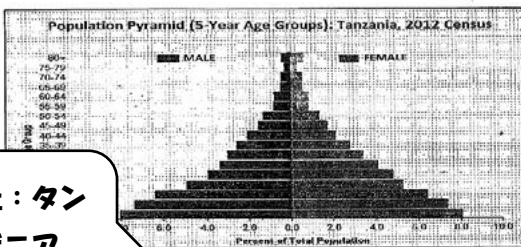
- ◇ 日本の生徒にとって発展途上国は心理的にも遠いところ。先進国同士の付き合いの教育環境の雰囲気は現在も同じだが、日本も歴史をたどると私たちの国も発展途上国であったことを認識することができる。自国の発展をふりかえり、そこで起きた様々な事象と今の途上国の問題と重なる部分はあるのではないかな。まずは認識、その後で考察をすることで教師の意図・ねらいが生徒にわかるようになる。
- ◇ パワーポイントや教師作成プリントに視覚的なものを多く取り入れ、テンポよく授業展開することで、飽きさせない・わかる授業を一斉授業スタイルで受け、そのあと、グループ討議をすることで、知識の定着から好奇心に火をつけた。

3 使用した教材

使用P7ポより抜粋した一例：富岡製糸場・八幡製鉄所



上：タンザニア、下：日本の人口ピラミッドで何がみえてくる（・・・）



事例としてのタンザニア：携帯電話普及と首都交通渋滞

1 子どもの活動の流れ

- ① 後発発展途上国(LDC)ってどんなところ？前回の授業で扱ったタンザニアの概要説明とパワーポイントで流しながら教師海外研修を雑感とともに紹介
- ② 隣国のルワンダ体験の紹介。パワーポイント写真で流しながら共通して見えてくるもの、そうでないもの(ルワンダ内戦・虐殺の傷跡とタンザニアのニエレレ政権の違い)
- ③ 授業展開の中から、モノカルチャー経済からの脱却・資源の偏り・国内経済格差・環境意識等の諸問題に触れる。
- ④ 大切なことは生徒自身が、主知的に考えるだけではなく行動する事、その事例として本校ボランティア部の紹介をして、自らが世界の一員であること、他国を思いやり行動する事が日本のさらなる発展につながるという結びで展開する。

この時限のねらい

前回授業で扱った国、タンザニアはどんなところなの？隣国ルワンダと比較することでアフリカと先進国の共通課題も見えてくる方法を取り、一国のみならず途上国と先進国との関係という大きな枠で考察させたい。そして、「私たちにできること」を生徒が主体的に考え、行動する事の大切さを認識する。その事例として本校ボランティア部の活動紹介をして国際理解教育に結びつける。

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 「その国に行ってみよう。」そう思えるまでの授業展開をできたかは疑問であるが、見ていて楽しい、ワクワクする感覚を重視した。視覚教材や実際の体験談を通して臨場感を大切にしたい授業展開は生徒の興味関心から、行動への動機づけとなる。
- ◇ タンザニアはあくまで事例にすぎない。アフリカの自然環境・部族社会・植民地化からの脱却を含めた「経済発展」を生徒がどう感じてくれるのか。隣国を含めたアフリカ諸国との比較が必須になる。また、あまりに、多くの知識の強要を生徒にすると、かえって意欲の低下になりかねない。情報の精選に苦労するが、生徒が発展的に学習するためのキーワードを散りばめる授業ができた。
- ◇ この授業で最も大切なことは、知識の定着→考察→さらなる段階の「行動への動機づけ」まで誘導すること、行動しなければ知識の実践にはならない。生徒主体の国際貢献・国際理解の模索につなげたい。

3 使用した教材

右：ルワンダ国旗

左：タンザニア国旗



両国特産物事例としてコーヒー：

私たちに何ができるのか：以下の写真
生徒によるエコ意識普及のため、手作り
廃油ハーブ石鹸作り紹介



日本の
私たち
に何が
できる
のかな



国名	タンザニア連合共和国
面積	約 94.5 万 km ² 日本の？
人口	約 4622 万人 (2011 年)
首都	ダル・エス・サラーム
民族 構成	130 の民族 (バンツー系のアフリカ人が約 95%) から構成される。アジア (インド) 系 (0.6%)、アラブ系 (0.3%)、ヨーロッパ系の居住者もいる。南部海岸地帯のマコロンデ族、ザンジバル島などのスワヒリ族が有名。
宗 教	イスラム教 (40%)、キリスト教 (40%)、伝統宗教 (20%)

5

時限目 開発をテーマに具体的事例から開発を考える

(教師海外研修を通したライフラインの普及の現状～ザンジバル水事業 ZAWA の紹介～)

1 子どもの活動の流れ



安全な水を手に入れるために、どれだけ労力と時間をかけなければならないの？

この時限のねらい

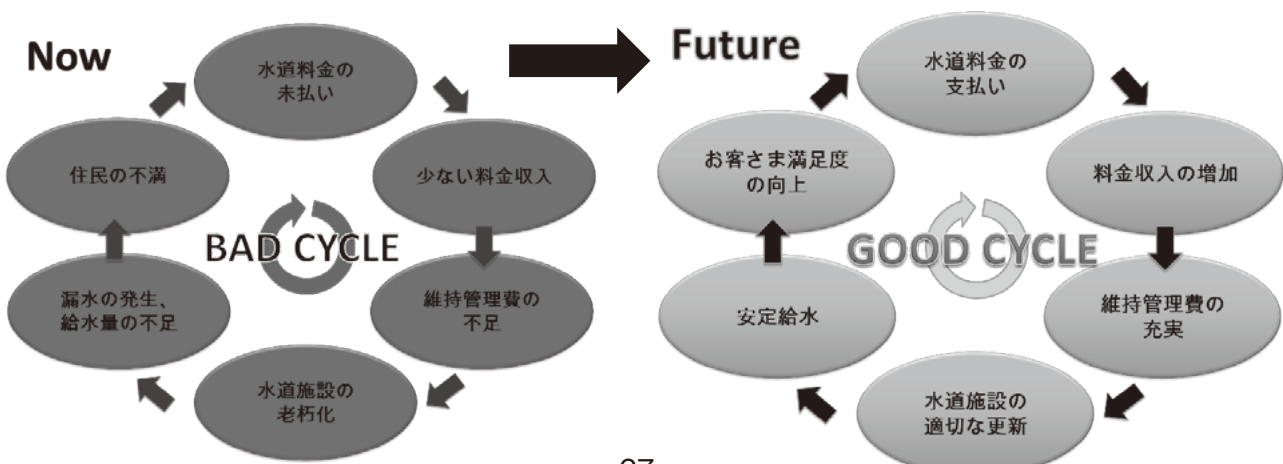
前回の授業にて「私たちにできること」という内容で終わり、ここからは ODA・JICA の具体的な取り組みの紹介として、教師海外研修で体験したことを生徒に還元すること。日本ではあたりまえの水道というライフラインの普及に携わる事業者の思いを生徒に伝えるとともに、途方もない根気のいる事業であることを理解させる中で、何が課題であるか、主体的に考えさせること。そして、生徒がこれまでの各授業が連続性をもっていることを理解し、これからの国際貢献を考える機会をつくる。

- ① 水道がない生活とはどのようなものか。ルワンダ体験の話から始める。水汲みにかかる労力を体験させる。(灯油タンク用意18Lを2つを持たせ、水場まで1Km歩いたと仮定する日々を連想させる)
- ② 世界の使用可能な水の総量、私たちの1日に使う水の概要等プリントを使用して説明
- ③ この度の教師海外研修にお世話になった横浜市水道局の方々や、タンザニアルにて ZAWA 職員の方々、ホームステイ先での体験談から、安全な水があたりまえではない社会を学習する。また、現地で奮闘する方々の VTR やパワーポイントを使用し、生徒に水の重要性とともに、草の根の開発の積み重ねにより、日本の ODA・JICA が評価されていることを認識してもらい、「開発」の奥深さを認識する。

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 「開発」「支援」「国際貢献」「発展」とは何かを生徒が各自感じとれているということが、授業後毎時回収する反省シートにより明らかになった。その内容の一例として、発展途上国に対し「治安が悪い」という意識が先行してしまいがちな、生徒をとりまく学習環境において、発展途上国にも日本を理解し、ともに学びあいたいと思う人々がいることを実感できたという意見があった。
- ◇ 教師の現場を実際に体験した「開発」のとらえ方により学習活動の中で臨場感をもたせて、自己の体験を中心に展開できたことによる生徒への効果は大きい。何よりも、他国への理解を文献だけでなく、実際にこれから体験しに行きたいという生徒が現れてきたことは指導の中で大きな反応ではないか。

3 使用した教材 以下タンザニアザンジバルにての取り組み事例 (資料以下：横浜市水道局提供)



■ 全体を通して

1 授業の様子

※授業は学習活動の中心であるが、授業を発展・実践する部活動も写真紹介させていただく。

<写真1> グループ学習



<写真2> 一斉授業



<写真3> ボランティア部指導







2 参考文献・資料

- 1) 山口三十四著 『産業構造の変化と農業：人口と農業と経済発展』1994 有斐閣
- 2) 白春リュク著 『現代資本主義入門』電子版 第二節 南北問題と資本主義化 2008 三恵社
- 3) 三好 皓一・高千穂 安長 編『国際協力の最前線』2001 玉川大学出版部
- 4) 島岡由美子著 『我が志アフリカにあり』 2003 朝日出版社
- 5) JICA 水問題 <http://www.jica.go.jp/aboutoda/ikegami/01/>
- 6) 神田浩史・佐久間智子・松平尚也・山本奈美 編著
『どうなっているの？日本と世界の水事情』第一章 日本の水道基礎事情 2007 アットワークス

以上

遠い空の向こうに、タンザニアにて

実践場所	神奈川県	神奈川県総合産業高等学校	実践者	増山 一光
対象	高校2・3年生		時間数	5時間
担当教科	商業		実践教科	学校設定科目「国際協力」
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・フوترランゲージを通じて、最貧国であるタンザニアの現状を健全な批判的視点から考察する。 ・タンザニアでの日本の国際協力の現場での活動に対する理解を深める。 ・タンザニアでの国際協力における課題を主体的に解決する態度を身に付ける。 			
実践内容	回	プログラム		備考
	1	<p>○タンザニアの基礎データ タンザニアの地理的な位置の把握と外務省の基礎データを用いたタンザニアについての学習をする。</p> <p>○タンザニアの文化紹介 教師海外研修で得た生活物資や文化的な産品の提示による文化紹介を行う。</p>		 カンガとマサラティ
	2・3	<p>○タンザニア フوترランゲージ 教師海外研修で訪れた3つ地点(ダルエスサラーム、ザンジバル、モロゴロ)に関する写真を各10枚用意する。 まず、個人で興味を持った写真を1枚選び、これに対して気づいたことを書いて表現して、全員で共有する。 次に、改めてタンザニアが最貧国であることを示し、これらの写真からどのように見えるかをグループで検討し発表する。</p>		 ストーンタウン
	4・5	<p>○国際協力 課題解決学習 教師海外研修で見学した ZAWA(ザンジバル水公社)での専門家の活躍と、ザンジバルの水道事業における負のスパイラルについて説明し、課題の確認をする。 各グループで、こうした課題を乗り越えて、国際協力を推進するためには、どのように活動しなければならないかを各グループで検討する。 検討結果を発表するとともに、議論を深めながら、それぞれのグループでの課題解決を促進する。</p>		 湧水水源  高架水槽
成果	<p>このような授業実践での成果として最も大きかったものは、タンザニアに対する理解であり、アフリカへの興味喚起であった。これにより、タンザニアの人々との交流をしてみたいという主体性が芽生えた。また、実際に日本のODAがどのように使われているかを理解させることができた。</p>			
課題	<p>タンザニアを理解するにあたって、基本的には日本の生活との比較から考察することにより、一部過剰な反応がみられたので、継続した指導が必要であると感じた。また、全体の授業デザインについては、新たなアクティブラーニングを取り入れるなど更なる改善が必要である。</p>			
備考	<p>タンザニアに関する授業実践の後に、学校設定科目「国際協力」で青年海外協力隊について学ぶにあたって、タンザニアに関する学習は大変良い影響をもたらした。</p>			

[授業実践の詳細]

1 時限目「アフリカにある国、タンザニアを知ろう！」

1 子どもの活動の流れ

- ①アフリカの地図からタンザニアの位置を知る。ここで今回訪問したダルエスサラーム、ザンジバル、モロゴロの位置関係についても確認する。
- ② 外務省のタンザニアに関する経済や社会に関するデータと、日本を比較することでどのような特徴があるか考えさせる。
- ③ タンザニアでの研修で得たカンガ(布)やティンガティンガ(ペンキによる絵画)等の物産品に実際に触れることにより、タンザニアに対する。

この時限のねらい

生徒にとって、タンザニアはほとんど知らない国である。そこで、各種データによる理解と、物産品をふれることで直感的な理解から、タンザニアに関する興味喚起と次回以降の授業の基礎知識とする。

2 子どもの活動の成果・反応

◇地図や各種データからのタンザニアに関する表面的な理解はできているようであるが、これだけではタンザニアをさらに知ろうというモチベーションにはつながっていなかった。

◇タンザニアにおける物産品を直接触って、生徒とのコミュニケーションを取れることで、各自の興味に応じた文化的特質や経済状況などを実際に知ることができた。

3 使用した教材

<教材1>地図とマサラティ



<教材3>タンザニアで使用されている携帯電話



※物産品の下に敷いているのがカンガです。

<教材2>街の様子を表現した本



<教材4>ティンガティンガ



2・3 時限目「タンザニア フォトランゲージ」

1 子どもの活動の流れ

- ①タンザニアでの研修で訪問したダルエスサラーム、ザンジバル、モロゴロでの写真を各10枚用意して、興味のあるものを1枚選んで感想、疑問、発見したことを台紙に書いて発表した。
- ②タンザニアは、国連の定義では最貧国の一つとなっている。そこで、グループを編成して「タンザニアが本当に最貧国に見えるか」というテーマに基づいて、その根拠となる3枚の写真を選定して検討した結果を発表した。

この時限のねらい

フォトランゲージを通じて、場所的な隔たりや時間的な隔たりを超えて、タンザニアの姿をとらえてもらうようにした。さらに、グループワークを取り入れ、タンザニアが貧困国であるかどうかの検討を多角的に行った。

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇生徒人の興味に基づくフォトランゲージを実施したことから、非常に積極的な学習活動がみられた。さらに、活動中のコミュニケーションから新たな気づきが見られ創造的なフォトランゲージになった。
- ◇「タンザニアは最貧国に見えるか」という問いに対して、実に様々な視点から検討がなされた。このことは、国の局地性と多様性を理解することに役立った。
- ◇これらの学習活動から、他者との議論を深めたり、意見を見聞きすることで、タンザニアに関して多くのことを知ることができた。

3 使用した教材

＜教材1＞高層ビル（ダルエスサラーム）



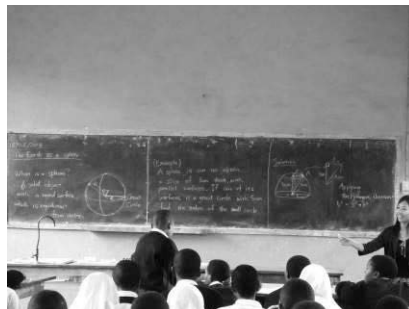
＜教材2＞ウガリ（ダルエスサラーム）



＜教材3＞村の風景（ザンジバル）



＜教材4＞青年海外協力隊の活動（モロゴロ）



1 子どもの活動の流れ

- ①ザンジバルでの水道事業の現状について説明して、ザンジバルの水道事業が抱えている悪循環について解説を行う。
- ②そこでの日本の専門家らが実践している国際協力について紹介する。
- ③こうした状況に対して、次の3つの課題を示してグループで解決の方策を検討した。
 - ・住所がないと料金徴収が難しい。どのように対応しますか。
 - ・ザンジバル水公社の職員をどのようにして本気にさせるか。
 - ・違法水道をなくすためにはどうしたらよいと思いますか。
- ④TANESCOの研修学校におけるJICA専門家 長坂 二郎氏からの子供たちへのメッセージを紹介して、課題解決学習のまとめを行った。

この時限のねらい

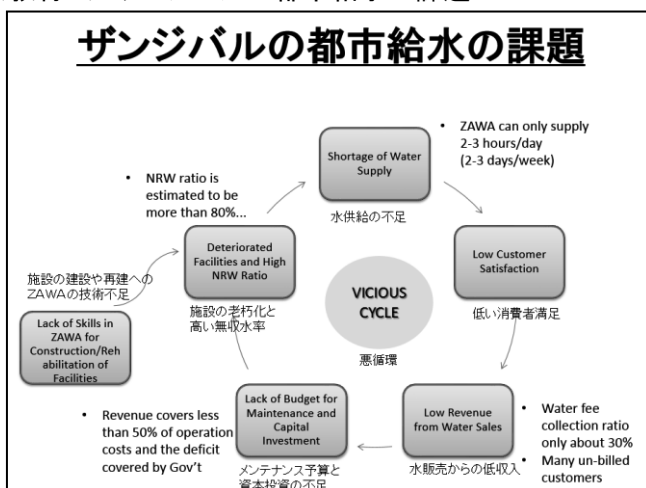
タンザニアでは多様な国際協力が行われている。ここでは、専門家によるザンジバルでの水事業を取り上げ、ここでの課題の解決を考えることで、国際協力に参加する態度を養う。

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇料金徴収については、日本での水道局を参考にして答えを導き出していた。しかしながら、身近であるはずのGPSの利用を示す生徒はいなかった。
- ◇現地職員のやる気を引き出すことについては、まず自分にとってのやる気を考えてから検討していた。給料や休暇だけではやる気を引き出すのが難しく、仕事による成果の重要性を認識させることができた。
- ◇違法水道については、多くの生徒が法規制などを考えていたが、タンザニアにきちんとした水道ができれば解決できると考えている生徒もいた。
- ◇様々な解決に関する方策が発表され、活発な生徒間の議論を進めるなかで、国際協力の難しさや素晴らしさを把握していた。

3 使用した教材

<教材1> ザンジバルの都市給水の課題



<教材2> 湧水水源



<教材3> 深井戸群



<教材4>高架水槽



<教材5>違法水道(タンク)



<教材4>長坂 二郎氏からのメッセージ

教師海外研修参加の皆様へ

本日は、TANESCO の研修学校 (TTS) 訪問ご苦労様でした。

子供たちへのメッセージです。

人間は、いくつになっても学ぶ事はたくさんあります。

どうぞ、失敗を恐れずに、いろいろな事に挑戦して下さい。

あなたの未来は、あなたの失敗から開かれます。

アフリカ タンザニア国で働いている日本人
JICA 専門家 能力開発プロジェクト チーフ・アドバイザー

長坂 二郎
長坂 二郎

■ 全体を通して

1 授業の様子

<写真1>フォトランゲージ 写真の選定



<写真2>フォトランゲージ 個別発表



<写真3>フォトランゲージ グループ発表



<写真4>フォトランゲージ グループ発表



2 参考文献・資料

- 1) 開発教育協会, 『開発教育実践ハンドブック』, 2012年, 上毛印刷株式会社
- 2) 外務省, 後発開発途上国, http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/ohrls/ldc_teigi.html
- 3) JICA, ザンジバル水公社経営基盤整備プロジェクトフェーズ 2, <http://www.jica.go.jp/project/tanzania/013/index.html>

以上

Business Model Plan in Africa

実践場所	神奈川県	川崎市立橋高等学校	実践者	鶴 嶋 麦
対 象	国際科1年		時間数	10時間
担当教科	英語	実践教科	国際理解 I	
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・日本人にとって遠い存在であるアフリカをより身近に感じられるようにする。 ・アフリカ諸国が抱える問題を探り、アフリカの現状を知り、その未来について考察する。 ・アフリカへの新しいアプローチの仕方を模索していく。 			
実践内容	回	プログラム	備 考	
	1	【アフリカに目を向ける】 <ul style="list-style-type: none"> ・アフリカに対するイメージを共有する。 ・クイズを通してアフリカの基礎知識を学ぶ。 ・番号付き白地図を使い、各自が担当する国を抽選する。 ・レポートのひな型を提示し、調べ学習の準備をする。 	使用教材等 <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート ・地図 ・パワーポイント 	
	2～4	【アフリカ諸国について調べる】 <ul style="list-style-type: none"> ・インターネット等を使い、各自が担当する国を調べ、レポートを作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネット ・エクセル 	
	5	【アフリカ諸国について知る】 <ul style="list-style-type: none"> ・各自がまとめたレポートを基に ALT よりの質疑応答を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート集 ・ワークシート 	
		【ビジネスプランについて考察する】 <ul style="list-style-type: none"> ・TV 番組を視聴し、アフリカにおける日本独特のビジネスモデルを学習する。 ・ビジネスプラン作成のためのグループ分けを行う。 ・レポート集、様々なベンチャービジネスの記事を各グループに配布し、各グループによる話し合いを始める。 	【テレビ朝日・報道ステーション・特集「アフリカの異色日本人」】	
	6～9	【ビジネスプランの構築及び発表準備をする】 <ul style="list-style-type: none"> ・各グループによるビジネスプランの提案を審査する。 ・合格ならばプレゼンテーションの準備を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・パワーポイント ・エクセル ・ワード ・その他素材 	
	10	【ビジネスプランのプレゼンテーションを実施する】 <ul style="list-style-type: none"> ・各グループによるビジネスプランのプレゼンテーションを行う。 ・見学者による投票(投資)を行い、順位(成績)を発表する。 		
成 果	初めは国名すら知らない国やその位置さえ定かでない国を調べることによって、アフリカを少し身近に感じられるようになった。また、各国の情報を交換することによって、アフリカの多様性を知ることができた。独自のアイデアを紹介し合うことも一つの収穫であった。			
課 題	授業はあくまで机上の論理であり現実ではない。現場での体験を、直接的または間接的にする必要はある。			
備 考	将来的には、事業者の講演、視聴、助言等を計画していく。			

[授業実践の詳細]

1 時限目「Quiz Africa」

1 子どもの活動の流れ

- ① “アフリカ”のイメージを書き、発表し合い、個々の持つ印象を共有する。
- ② クイズ形式でアフリカの基礎情報を学ぶ。
- ③ ひな型を基に、一人一カ国を調べ、レポートをまとめることを確認する。
- ④ 抽選で各自が担当する国を決め、地図で場所を確認する。
- ⑤ レポートの作成方法、保存先、提出の仕方とその期限を確認する。

この時限のねらい

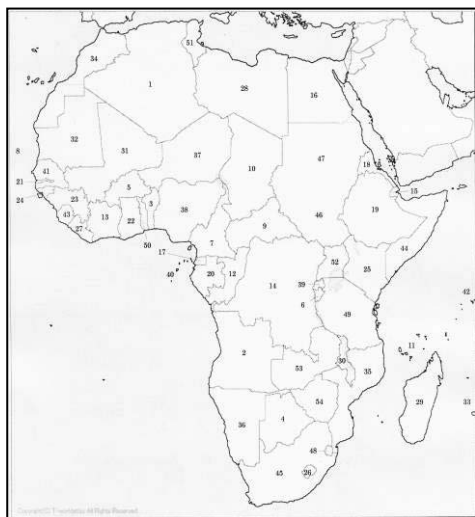
日本人にとって馴染みが薄く、遠い存在のアフリカを、前より少しだけ身近な場所と捉えられるようにする。

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ アフリカの持つ多様性、意外性を知り、少しアフリカに目を向けることができた。
- ◇ 位置どころかその国名すら知らない国の担当になり、かなり戸惑いを隠せない様子であった。
- ◇ 後日、定期試験にて、アフリカの基礎情報、各国の国名、位置、特徴等を出題したが、ある程度アフリカに対する意識は変わってきたようである。

3 使用した教材

- <教材1> ワークシート
- <教材2> パワーポイント「Quiz Africa」
- <教材3> レポートひな型
- <教材4> 地図ピース(抽選用)
- <教材5> 番号付き白地図
- <教材6> 国名・首都一覧表



Flag	Name	Capital
1	Algeria	Algiers
2	Angola	Luanda
3	Benin	Porto-Novo (official) Cotonou (seat of government)
4	Botswana	Gaborone
5	Burkina Faso	Ouagadougou
6	Burundi	Bujumbura
7	Cameroon	Yaoundé
8	Cape Verde	Praia
9	Central African Republic	Bangui
10	Chad	N'Djamena
11	Comoros	Moroni
12	Congo (Congo-Brazzaville)	Brazzaville
13	Côte d'Ivoire (Ivory Coast)	Yamoussoukro (official) Abidjan (seat of government)
14	Democratic Republic of the Congo (Congo-Kinshasa)	Kinshasa
15	Djibouti	Djibouti
16	Egypt	Cairo

Q1. How many countries are there on the continent of Africa ?

- a. 29 countries
- b. 47 countries
- c. 54 countries

Q2. What is the newest country which just became independent in 2011 ?

- a. South Sudan
- b. Kenya
- c. South Africa

Q3. Everywhere in Africa is very warm. the temperature doesn't go down below 10°C.

Yes No

1 子どもの活動の流れ


- ① ブランクファイルをコピーし各自のファイルを作成する。
- ② インターネットを使い、各自担当した国を調べる。
- ③ レポートに載せる項目を決め、紹介用の文章を作成する。
- ④ 外国人講師に英文のチェックを受ける。
- ⑤ レポート用ファイルに文章を打ち込む。
- ⑥ 必要に応じて、図画や写真をファイルに貼り付ける。
- ⑦ 印刷時のレイアウトを確認する。
- ⑧ 各自のファイルを提出用フォルダーに保存する。
- ⑨ プリントアウトしたファイルを提出し、外国人講師による最終チェックを受ける。
- ⑩ 不備な箇所を訂正し、ファイルを再提出する。

この時限のねらい

アフリカについてもう少し深く知るために、一人一カ国を担当し、調べ学習を通して、各自がその国のエキスパートとなる。

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 初めはパソコンの操作に慣れておらず戸惑っていた。
- ◇ 作業をしていく内にだんだん慣れてきて、楽しんで調べ学習をしている様子がうかがえた。また、レポートのレイアウトに工夫をだし、それぞれの個性が出るようになってきた。
- ◇ アフリカ54ヶ国に対して、1クラス40名では14ヶ国足りないと思っていたが、早々とレポートを完成させ、2ヶ国目を担当したいという生徒が続出し、残りの国だけでなく国以外の地域や会議についてもレポートを任せることになった。
- ◇ 英文でのレポート作成には相当苦勞し、外国人講師から何度もダメ出しを受けていたが、後日定期試験にて各自が担当した国についてその概要を書かせたところ、外国人講師から英語がうまいという言葉ももらった。

7 Republic of Cameroon		History Germany started settlements in cities in coastal areas. Cameroon of the German protectorate was formed in 1884. Cameroon and France colonial ruled Cameroon in 1911. 1960 is called the Year of Africa. Cameroon became independent of France. They changed the name of the country to the current Republic of Cameroon in 1964.
Location		The Republic of Cameroon is a country in the west Central African region. It is bordered by the Federal Republic of Nigeria and the Central African Republic.
Area	At 475,440 square kilometers, which is 1.25 times as large as Japan. Cameroon is almost the same size as Papua New Guinea and Turkmenistan.	Religion As for the Cameroonian religion, Christianity is about 70% of the population. Islam is 21%, and African traditional religions are 6%.
Climate	The coastal plain is very hot and is the most humid place in the world. Average level above the sea level is 650m.	Traffic Only 10% of the roads are paved. In addition, bad weather also makes domestic transportation difficult. Robbery by police officers is a problem in each area. There is an international airport in Douara and Garoua. Douara port is the main port.
Capital City	The capital city of Cameroon is Yaounde. It is the second biggest city in Cameroon. It is cool although it is near the equator.	National Flag At the time of the independence of 1960, it was a simple tricolor flag. Two yellow stars were added in 1961. The red means unification, the yellow means the sun and the green means the forest.
Population	The population is about 20,500,000 people. It is 1.25 times as big as the Japanese population. The ethnic groups are divided into 275 groups.	Food Foods such as mutton, beef and corn are staple food in the northern part. Cassava and fish are eaten in the southern part. The food which is the most popular in Cameroon is the side dish which is made from mince and vegetables and a spice called Le Ndolé in French.
Language	The official languages are French and English. Also, Fan and Fula are used. French is used in many areas including Douara and the capital of Yaounde.	Heritage Site There is no cultural heritage in Cameroon. The natural heritages is the three countries protection area of the Thermos Animal Sanctuary and the Sanger Abandonment area.

9 Central African Republic		Location It is located in Central Africa. It is bordered by Southern Sudan to the east, Democratic Republic of the Congo to the south, Cameroon to the west, Chad to the north. This country's capital is Bangui.
Area	At 346,692 square kilometers, which is 1.25 times as large as Japan. Cameroon is almost the same size as Papua New Guinea and Turkmenistan.	Religion As for the Cameroonian religion, Christianity is about 70% of the population. Islam is 21%, and African traditional religions are 6%.
Climate	The coastal plain is very hot and is the most humid place in the world. Average level above the sea level is 650m.	Traffic Only 10% of the roads are paved. In addition, bad weather also makes domestic transportation difficult. Robbery by police officers is a problem in each area. There is an international airport in Douara and Garoua. Douara port is the main port.
Capital City	The capital city of Cameroon is Yaounde. It is the second biggest city in Cameroon. It is cool although it is near the equator.	National Flag At the time of the independence of 1960, it was a simple tricolor flag. Two yellow stars were added in 1961. The red means unification, the yellow means the sun and the green means the forest.
Population	The population is about 20,500,000 people. It is 1.25 times as big as the Japanese population. The ethnic groups are divided into 275 groups.	Food Foods such as mutton, beef and corn are staple food in the northern part. Cassava and fish are eaten in the southern part. The food which is the most popular in Cameroon is the side dish which is made from mince and vegetables and a spice called Le Ndolé in French.
Language	The official languages are French and English. Also, Fan and Fula are used. French is used in many areas including Douara and the capital of Yaounde.	Heritage Site There is no cultural heritage in Cameroon. The natural heritages is the three countries protection area of the Thermos Animal Sanctuary and the Sanger Abandonment area.

3 使用した教材

<教材1> ワークシート

1 子どもの活動の流れ

- ① 各自のレポートの報告。〈時間上の制約により省略〉
- ② 数カ国について、外国人講師からの質問を受ける。
- ③ 日本人が、これからどうアフリカと接していけば良いのかを考えていく上で、そのヒントとなりうる番組を視聴する。
- ④ 今アフリカが求めているのは援助ではなく、投資であるということを理解した上で、“ビジネスモデル”を考えてグループごとに発表を行うという、今後のスケジュールについての説明を受ける。
- ⑤ グループ分けを行い、リーダーを選出する。
- ⑥ グループごとに、アフリカの国に関するレポート集と様々なベンチャービジネスに関する記事を受け取る。
- ⑦ グループごとに、“ビジネスモデル”を考え始める。

この時限のねらい

アフリカへの、新しいアプローチの仕方を模索する。

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 各自のレポートを見比べることによって、新たな発見があった様である。
- ◇ 外国人講師からの質問は、レポートの内容に関するものからレポートにないその国の特徴に関するものまで多岐にわたり、中にはかなり突っ込んだ質問もあったが、各々何とか対応していた。質疑応答に対処できた安堵感と共に、レポートの不完全さも痛感したようであった。
- ◇ プレゼンテーションのような発信型の活動には興味関心が高い生徒が多いので、不安よりもむしろ楽しみにする様子が見えかけた。しかし、その内容よりもデリバリーだけに奔りそうなところもあるので、注意が必要であると感じた。

外国人講師からの質問一例

Q. Can you tell me the characteristics of Benin music? (ベニン音楽の特徴は?)

Q. What is the popular activity for European tourists in Lesoto?

(レソトでヨーロッパからの観光客に人気のアクティビティは?)

Q. How does Libya survive economically? (リビアは経済的にどうしていけばよいか?)

Q. Can you explain Sape fashion in Angola?

(アンゴラのサペ・ファッションを説明して?)

Q. What do some scientists call Madagascar? And why?

(科学者はマダガスカルのことを何と呼んでいるか? その理由は?)

3 使用した教材

〈教材1〉 ワークシート

〈教材2〉 テレビ朝日・報道ステーション・特集「アフリカの異色日本人…中国とは違う選択」

〈教材3〉 アフリカの国に関するレポート集

〈教材4〉 ベンチャービジネスに関する記事のコピー

1 子どもの活動の流れ

- ① グループごとにアフリカ諸国の特徴、実情等を考慮しながらビジネスモデルを構築する。国または地域も限定する。
- ② 計画書を提出し、教員の裁可を受ける。裁可の判断は以下の基準とし、その実現性は考慮しない。

1. その国または地域の特性を生かしている。
2. 独創的である。(既存のものは不可)
3. 収益性がある。(あくまでビジネスである)

- ③ 合格ならば、プレゼンテーションへ向けての準備を始める。発表の方法はパワーポイントを用いてもよいし、クリップ・ボード等のアナログ形式でもよい。また、寸劇等を交えてもよいものとする。
- ④ 英語と日本語でレジュメを作成する。

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 国際協力や途上国支援といったこれまで国際科で学んだり活動してきたことの影響からか、提出されたプランがどうしても援助の域を出ずに、最初の段階では6グループ中3グループが差し戻しとなってしまった。投資＝援助という考え方にはまだかなり違和感があるようであった。
- ◇ それぞれのグループが自らのプランに自信や夢(可能性)を持っている様子がうかがえた。
- ◇ 今回のグループ分けでは、従来のランダムなグループ分けにせず、あえて男女別にしまた好きな者同士で組ませてみた。その結果、プランの内容やその発表方法においてそれぞれの特徴が顕著に見られた。

各グループによるビジネス・モデル・プランのテーマ

- A. Casino Arabian Night (アラビアンナイト・カジノ)
- B. Precious Sand (ガラス工場)
- C. Great African Circus (アフリカ大サーカス)
- D. Re-make Fashion (リメイク・ファッション)
- E. Aquarium in The Desert (砂漠の水族館)
- F. Anime Challenge (アニメの挑戦)

3 使用した教材

<教材1> ワークシート

この時限のねらい

アフリカにおけるビジネスモデルを構築するという活動を通して、国や地域の特性を再確認させる。また、あえてグループワークにすることで生徒個々の個性を引き出す。

Summary Of Business Model Plan

① The name of the plan
"GREAT AFRICAN CIRCUS"

② The countries
Headquarters: Japan
Base: Tanzania

③ The outline

We will do worldwide activities. The main company is Japan. The base is Tanzania. The plan is entertainment by African animals. Tanzanians target is global expansion.



10 時限目「Business Model Plan Presentation」

1 子どもの活動の流れ

- ① 受付にて、見学者に次第と投票(投資)用の紙幣を渡す。
- ② 司会者(日本語と英語の2名)によってプレゼンテーションを進行する。
- ③ 各グループによる発表と質疑応答を行う。各グループの持ち時間は10分(発表5分・質疑応答5分)とし、タイムキーパーも設置する。
- ④ 見学者の投票(投資)により、順位(成績)の発表を受ける。成績は 100万円=1点とし100点満点で評価する。
- ⑤ 表彰及び指導講評を受ける。

この時限のねらい

様々な活動において、生徒による自主的な運営を行えるようにする。

努力に報いる成果、あるいは努力と結果とのギャップを感じさせる。場合によっては現実の厳しさを知ることになる。

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 短い準備期間にもかかわらず、それぞれ特徴のある発表を行うことができた。
- ◇ パワーポイントの作成、操作には思った以上に慣れていることが分かった。
- ◇ 実際に発表を行い、また他グループの発表を見ることによって、良かった点、自分たちに足りなかったりうまくいかなかった点、今後の参考となる点等を知ることができた。

3 使用した教材

特になし。

■ 全体を通して

1 授業の様子




2 参考文献・資料

特になし。

以上

知ろう、考えようー日本から世界を〈食料・水事情〉

実践場所	山梨県	北杜市立甲陵高等学校	実践者	木内 美恵
対象	高校1年生	時間数	5	
担当教科	英語	実践教科	コミュニケーション英語Ⅰ	
ねらい	① タンザニアを一例として日本や世界における食料・水事情の現状を理解する。 ② 日本や世界の食料・水事情についての理解を深め、それらの問題や課題について考える。 ③ グラフなどのデータを表現する英語に触れる。			
実践内容	回	プログラム	備考	
	1	【日本の貧困・世界の貧困】 ・「Hunger Map」英語版を読み取る。 ・日本や世界の貧困現状について知りその原因や課題を考える。 ・タンザニアの概要を知る。	使用教材 ・『WFP Hunger Map』/ CROWN、2013年、三省堂 ・世界地図 ・パワーポイント資料	
	2	【貧困〈食料事情〉】 ・データを見ながら日本や世界の貧困現状について知り、その原因や課題を考える。 ・食に関してタンザニアや日本(山梨)の写真から食料に関する実状を知り問題や課題を考える。	・タンザニア、山梨で撮影された写真 ・ワークシート ・パワーポイント資料	
	3		・タンザニアで撮影された写真  用いた資料の1枚(水を飲む様子) ・ワークシート ・パワーポイント資料 〈写真1~2〉	
	4	【貧困〈水事情〉】 ・生活に必要な不可欠なもの考える。 ・食料自給率、バーチャルウォーター、水不足を示したデータを見ながら、日本や世界各国の水事情を知る。身近な問題として考える。	・タンザニアで撮影された写真 ・ワークシート ・パワーポイント資料 〈写真3~4〉	
5	・「安全な水」が手に入らない現状を知り、日本やタンザニアの水事情から限りある資源であること、水不足を身近な問題として考える。 ・実情から自分ならどうするか、何ができるかを考える。			
成果	途上国など世界の食料・水の問題が自分たちと関わり合っていることを感じ取ることができたようだ。また、同様の問題が、国内にも存在しているということを知った。身近な食・水に関する問題や課題について考え、共有することで関心を高めることができたと感じる。			
課題	途上国や世界の問題からボランティアや国際協力活動の実例について触れ、また自分にできること、したいことをさらに深く考えることができる時間も設けることができたと思う。			
備考	生徒が互いの理解を深めるために現地の生徒へのアンケートを利用していきたい。			

[授業実践の詳細]

1 時限目「日本からタンザニアへ ～ 日本・世界の貧困」

1 子どもの活動の流れ

① 「Hunger Map」英語版を読み取る

・・・世界各国の飢餓状況を英語で読み取った。データに関して話している会話を聞き取り、飢餓状況について考える切り口とした。

② 日本や世界の貧困現状について知りその原因や課題を考える

・・・日本の貧困(既習単元の内容)を振り返りながら、「なぜ、日本に780,000万人以上もの人が十分な食料を得ることができない状態にいるのか」について考えクラスで考えを共有した。

飢餓状況を示すマップのと合わせ、日本から世界へと目を向けた。国際機関のデータマップを用いて貧困ラインと貧困人口についての現状を知り、貧困のために、食料の確保が困難であることを認識し、タンザニアについての導入へと繋げた。

③ タンザニアについて概要を知る

・・・Hunger Map、世界地図でタンザニアの位置を確認。国旗、歴史、人口などの概要を知った。既習単元の確認を含めた展開ができた。今後の授業では主な例にタンザニアを取り上げていくことから、既習単元との繋がりがスムーズであった。

この時限のねらい

データから日本国内でも貧困状態にあることや世界の飢餓の現状を理解させる。また、タンザニアについて知り、タンザニアを一例として日本から世界へ目を向け、世界から日本を見つめるきっかけとする。

2 子どもの活動の成果・反応

◇ 既習単元で貧困やボランティア活動についての英文を読み、タンザニアで活動する環境保護活動家について触れたことがあったため、生徒も既習内容の確認ができた。以前に触れたとはいえ、タンザニアの概要に関しては新鮮な感覚で聞いている様子であった。タンザニアを中心に日本から世界へ目を向け、今後の国内外の水・食料事情を考える糸口になった。

3 使用した教材

<教材1>『WFP Hunger Map』、CROWN、2013年、三省堂

<教材2>世界地図

<教材3>パワーポイントによる自作資料

1 子どもの活動の流れ

① 【貧困〈食料事情〉】

データを見ながら日本や世界の貧困現状について知り、その原因や課題を共有する

…前回の内容を確認しながら、日本の貧困率とその問題について考えたことを共有した。

② 食に関するタンザニアや日本(山梨)の写真から食料に関する現状を知り問題を考える

…タンザニアと日本(山梨)の6枚の写真を使ってフォトランゲージを行った。グループ(5~6人)に分かれ、一人一枚ずつ写真を手に取り、リレー式で回しそれぞれの写真について、どこで何をしているのか。何を感じたかについて記入し、共有した。クラス全体でも発表することで必ず一人ひとりが考えるよう配慮した。

③ 【貧困〈食料事情から水事情へ〉】

生活に必要な不可欠なものを考える。

…グループごとに考えを出した。食料、水、安全、米といった意見が出た。

④ 食料自給率、バーチャルウォーター、水不足を示したデータを見ながら、日本や世界各国の水事情を知る。身近な問題として考える

…日本の食生活と、生活に欠かせない水について食料自給率から考えた。また、バーチャルウォーターのデータを参考に世界の水と生活の関わりを認識した。

⑥ 水不足の現状を知る。

…水不足について世界での現状、地域差について知り、生きるための水の入手が困難なことを知った。

この時限のねらい

データを見ながら日本や世界の貧困現状について理解を深めその原因や課題を共有する。タンザニアや日本の食料に関する現状を知り問題を考える。また、食料と水の関わりを認識させる。

2 子どもの活動の成果・反応

◇ 写真の中の人や物を注意深く観察した感想や1枚の写真から異なった見方があるものもあった。またそれぞれの考えをグループごと、クラス全体に共有することで、多様な捉え方を知ることができた。想像力を働かせたり、疑問を持つ生徒や率直な感想を述べたりするなど前向きに取り組む姿勢が見られた。

3 使用した教材

<教材1>『WFP Hunger Map』、CROWN、2013年、三省堂(ワークシート)

<教材2>タンザニア、山梨で撮影された写真

<教材3>パワーポイントによる自作資料

1 子どもの活動の流れ

① 【貧困く水事情】

普段の生活から水との関わりを考える。

- …前回の授業を振り返る。世界普段の生活の中でどのくらいの量の水を使っているか、平均的な水使用量を提示して考える。水不足を示す世界のデータと日本、アフリカ(タンザニア)との現状を知った。

② 日本やタンザニアの水事情から「安全な水」が手に入らないという現状を知り、そのことによる問題を考える。

- …グループごとに各自が考え共有した。写真を通して現状を知り、世界や発展途上国で病気や死亡が水に起因することや、水汲みの仕事に触れた。

③ 限られた水・自分ならどう使うか考える。

- …「1日に水を50Lしか使えない場合」どうするか。その目的と理由、そこから引き起こされる問題についてウェビングの方法で書き出した。また、各グループで書き出したものを見せながら発表し合った。

④ タンザニアの水事情と課題について

- …タンザニアの状況から水を手に入れる選択を提示し、自分ならどのようにするのかを考えた。またその理由も説明した。

⑤ 都市給水の課題を考える

- …JICA 職員や水公社によるザンジバルの都市給水の課題「悪循環」があるという現状を理解し、その課題解決策、何をしたいかを考えた。

この時限のねらい

日本やタンザニアの水事情から水が限りある資源であること、「安全な水」が手に入らない国内・世界の現状を知り、課題解決策を探る。生活水の消費から日本と世界の水の消費につながりがあることを理解させ、自分たちの問題として考える。

2 子どもの活動の成果・反応

◇身近な生活水の消費について興味を持って取り組んでいる様子が見られた。また、途上国やタンザニアでの水事情の現状を知ると多くの生徒が驚いていた。世界の問題が自分たちと深く関わり合っていることを感じ取ることができたようだ。

3 使用した教材

<教材1>タンザニアで撮影された写真

<教材2>パワーポイントによる自作資料

<教材3>ワークシート

■ 全体を通して

1 授業の様子



<写真1> フォトランゲージで各自の発想を書き出す様子 <写真2> データ資料をみて理解を深める様子



<写真3> グループでアイデアをまとめる様子 <写真4> 個人・グループで出た内容を発表する様子

2 参考文献・資料

- 1) 特定非営利活動法人 開発教育協会 『水から広がる アクティビティ 20』、2014 年
- 2) 独立行政法人国際協力機構 (JICA) 大林『ザンジバルの水事情と JICA の取り組み』タンザニア研修資料
- 3) 『WFP Hunger Map 』、CROWN、2013 年、三省堂(ワークシート)
- 4) 国際連合食糧農業機関 『<http://www.fao.or.jp/>』
- 5) 国際連合世界食料計画 『<http://ja.wfp.org/>』
- 6) 世界銀行 『<http://www.worldbank.org/>』
- 5) 駐日タンザニア連合共和国大使館 『<http://www.tanzaniaembassy.or.jp/>』
- 6) NPO 法人 The Water Project 『http://thewaterproject.org/about_us/』

以上

KARIBU! TANZANIA!

実践場所	神奈川県	神奈川県立高津養護学校	実践者	牧 ちさと
対象	高等部2年生		時間数	計7
担当教科	国数、美術		実践教科	国数、美術、ホームルーム
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・タンザニアの生活・文化・伝統に触れ体験し、興味関心を持つ。 ・自分たちの生活や文化伝統を紹介し自己発信につなげるとともにタンザニアについて知ったことを絵にまとめる。 			
実践内容	回	プログラム		備考
	1	【ホームルーム：外国の方々に日本の紹介をしよう】 ・日本に興味のある人々に日本のことを紹介するには何をしたらいいか考え、行動する。〈折り紙・ぬりえ作り〉		<使用教材教具> ①世界地図 ②折り紙 ③忍者の塗り絵
	2～4	【国数：タンザニアの生活、文化、伝統を知ろう】 ・アフリカやタンザニア、日本の位置を確認する。 ・タンザニアの言葉(スワヒリ語)、数字に挑戦する。 ・タンザニアの生活や文化、伝統を知り体験する。 ・タンザニアの高校生の様子を見たり、学校の話の聞いたりして自分の生活との相違点、自分たちにできることは何かを考える。		①視聴覚機器 ②カシューナッツ ③写真 ④クイズプリント ⑤バケツと水 ⑥マサイ族の衣装
	5・6	【美術：ティンガティンガアートに挑戦しよう】 ・タンザニアについて知ったこと、体験したこと想像したことで印象に残ったことをタンザニアのティンガティンガアートを意識して描画する。 ・色の学習の発展として取り組んだ。		①写真 ②絵ハガキ ③ティンガティンガアート ④タンザニアの本
	7	【美術：アフリかるた 鑑賞】 ・生徒の描いた絵をかるたとして活用し、タンザニアの人々の生活や文化、抱える問題等を振り返る。 ・友人の描いた絵を鑑賞する。 ・カンガの試着体験。		①カンガの衣装 ②発表カード ③アフリかるた絵札 ④アフリかるた読み札
成果	タンザニア人の生活や文化・伝統に触れ、体験する中でタンザニアとの違いや似ているところ等を感じ、それらを生徒たち自身が表現できたことが成果のひとつである。また、日本のことを発信し異文化に興味を持つことができる生徒が多くいたことは良かった。			
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・節水、食事等自分たちの何気ない行動が世界の同世代の人々が抱える問題につながっていることについて考えられるような学習を教育課程に合わせて行うこと。 ・生徒の実態と興味関心に合った内容で卒業後の生活と結び付けられるような国際理解教育・開発教育を継続していく。 			
備考	生徒たちはこれまでアメリカ人講師を招いて学習を行う機会があり、英語で話をする機会があった。英語以外の言語(スワヒリ語)のこと、スワヒリ語を用いて生活する人々の生活等を知り、さらに知的好奇心を広げる機会となった。生徒たちの知的好奇心、疑問にさらに応えられるよう継続した開発教育、国際理解教育の授業に取り組んでいく必要がある。			

[授業実践の詳細]

1 時限目 「日本のことを紹介しよう」

学級活動 (ロングホームルーム)

1 子どもの活動の流れ

- ①日本の文化を他国の人に伝える。
他国の人に日本の文化を伝えるにはどういふことを伝えたいかを考える。(折り紙、着物、食べ物、畳、学校生活でがんばっていること)
- ②紹介したい文化をどのように伝えたいかを考え、準備する。
折り紙の作成(手裏剣、雪だるま、カエル、風船等)、食べ物や着物や畳、学校の様子は写真で伝える。食べ物はお菓子等は持っていきそうなら持っていくという話し合いとなった。

この時限のねらい

- ①自己発信の場として、自分の生活や日本の文化で伝えたいことを考える。
- ②自分の伝えたいことは、どのようにしたら分かりやすいかを考え、準備を行う。
※用意したものは教師海外研修の際に持参する。

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇あえてタンザニアに行くとは言わずに「日本に来たことがない、日本に興味のある高校生(17歳ぐらい)のために日本の紹介をするならどんなものがいいか」という問いかけに対して、ALT との交流の経験や教員のヒントをもとに日本の文化を考え、意見を出していた。
- ◇「折り紙や切り絵がきれいだから教えたい」「雪を見たことがないかもしれないから雪だるまを教えたい」「忍者を絵に描いて手裏剣を持たせたいかもしれない」等の意見が出て、相手のことを考えて活動に取り組む生徒もいた。
- ◇「歌は好きかな」「どれくらい遠くに住んでいる人たちだろう」と相手に思いをはせる生徒や、「写真で日本の文化を伝えるには」というテーマの中で意見を求められると、着物や富士山、学校の校舎を見せたいといった意見が出た。
- ◇どこの国の誰か分からない同じ年の人たちに、自分が日本のどんなことを伝えるか、どうやって伝えるかを考えることができた。その中で自分の暮らしについて振り返り、自己発信へとつなげることができた。

3 使用した教材

<教材1> 折り紙の作り方見本

<教材2> 忍者の塗り絵(教員自作)

<教材3> 折り紙

↓ 忍者の塗り絵



↓ 生徒の作った折り紙



★本校はグループ制の授業を行っている。以下は集団での教科の系統学習に一定程度乗っていくことができる生徒のグループ(3グループ)を対象とした授業の報告である。

2 時限目「タンザニアってどこにあるの?どんな場所?」(3グループ)

外国語

1 子どもの活動の流れ

①アフリカ タンザニアのイメージ

アフリカに対するどんなイメージをもっているか記入する。

②アフリカ タンザニアの位置確認

地図上での位置を認識していない生徒が多数いたため、日本の位置とアフリカ・タンザニアの位置を予想して地図で確認する。

③アフリカにある有名なもの

日本のものと比較しながらタンザニアにある有名なものを知る。
タンザニアの人々の暮らしについて知る。

この時限のねらい

- ・日本から遠く離れたタンザニアに暮らす人々の生活や文化について知る。
- ・タンザニアと日本の違いや共通することを知る。

2 子どもの活動の成果・反応

◇マスメディアでアフリカという言葉聞いたことのある生徒が大半だったため、アフリカに対してどのようなイメージがあるかアンケートを行った。

「ライオンやキリンがいそう」「汚い水」「募金を集めているところ」「お米は食べない」「料理はおいしくなさそう」等と悩みながらいくつかの意見が出たが、自信のなさそうな生徒が多かった。

メディアを通して、あいまいではあるが何かしらのイメージがあることが分かった。しかし、曖昧なイメージの生徒が大半を占めていることが分かった。

◇世界地図が示してあるプリントに日本の位置、アフリカ、タンザニアの位置それぞれを○で囲んだ。日本はほとんどの生徒が○で囲むことができたが、アフリカやタンザニアの位置はほとんど分からなかった。正解とともに飛行時間等を伝えると「え～！」という驚きの声が出てきた。

「アフリカのタンザニアはとても遠い、行くの疲れそう」「小さい島もある国なんだ」

◇日本にあるものを比較しながらタンザニアにある有名なものや文化についての紹介を行った。例えば「富士山⇔キリマンジャロ」「お米⇔ウガリ」「コココーラの看板」「走る日本車」等。

「キリマンジャロに芸能人が登っていたよ」「キリマンジャロコーヒーを飲んだことがある!」「日本車が走っているなんて驚いた」「男の人がチェックのスカートをはいているよ??」といった異文化に対する驚きも多くあったが、共通点に対しての驚きの声も多くあった。

3 使用した教材

<教材1> 世界地図、

<教材2> 日本地図

<教材3> パワーポイント

<教材4> キリマンジャロ缶コーヒー



↑ 地図上の日本、アフリカ、タンザニアの位置に○をする。

1 子どもの活動の流れ

①スワヒリ語であいさつをしよう

生徒自身の毎朝のあいさつの仕方について振り返る。タンザニアの人はあいさつが大好きで一人一人に「ていねい」にあいさつをするということを知り、あいさつの練習をする。次回、ゲストが来ることを伝える。(学年の教員がなりきる。)

②スワヒリ語クイズ

「ライオンキング」や「ジェンガ」「ポレポレ」「水」等、日本や学校のある地域にとってなじみのある言葉を例にスワヒリ語日の学習を2択クイズで行う。

③スワヒリ語ラジオ体操に挑戦しよう

スワヒリ語の体操音源を聞いて、その中で言われている数字を聞き取る。音に合わせて体操に取り組む。

この時限のねらい

- ・タンザニアの人々が話している言葉であるスワヒリ語、あいさつや日本人にとってなじみのある単語について知る。
- ・日本語や英語以外の言語に触れ、音の面白さや雰囲気を楽しむ。

2 子どもの活動の成果・反応

◇普段の自分たちはは教室に入る際に「おはようございます」と言う程度であると答えた生徒が多かった。タンザニアの人々は一人ひとりにあいさつをしてコミュニケーションを取り合っていることを伝えると「ていねいでえらい。一人ひとりにあいさつしようと思ってもなかなかできない」という感想があった。「こんにちは、ごきげんいかが」「げんきですよ、あなたは？」というスワヒリ語を皆で練習した後に教室にいる全員とあいさつというゲームを行った。「一人ずつとあいさつは大変」「大変だけどうれしいかもしれない」といった感想があった。

◇ライオンキングのキャラクターやジェンガ等の写真を活用し、2択でスワヒリ語クイズを行った。

「キャラクターの名前には意味があるんだね」「水がマジっておもしろい！」「ポレポレ通りってゆっくりという意味があるのかな。」等と、一度は見たことがあるキャラクターや地域にある通りの名前が実はスワヒリ語だと分かって喜んでいる生徒や身近に感じている生徒がいた。

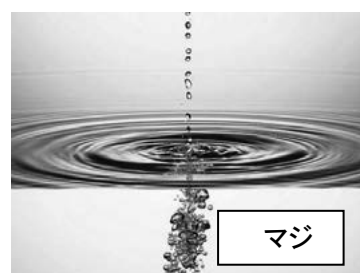
◇スワヒリ語版ラジオ体操を聞き、聞き取れる音とそこから考えられる意味を推測する。「モジャムビリタウ…」が繰り返されるのを聞いて、数字ではないかと予想を立てたり、他の言葉についても面白いと思った音の真似をしてみたりしていた。実際に合わせて体操を行った。最後にスワヒリ語のラジオ体操は日本人がタンザニアの人が体操をする機会を取れるように作ったことを知り、「日本の体操に取り組んでくれたらうれしい。」「1がモジャというなんてスワヒリ語はおもしろい！」

3 使用した教材

＜教材1＞ライオンキング、ジェンガ、水の写真 右図→

＜教材2＞パワーポイント

＜教材3＞スワヒリ語ラジオ体操



1 子どもの活動の流れ

- ① 女の人が頭の上にバケツを乗せて歩いている写真を見て何をしているところか、どうしてそれを行っているのか考え、水はどれくらいの重さなのか体感する。
- ② タンザニアの食べ物に挑戦
カシューナッツやバオバブの実を試食する。
- ③ タンザニアの高校生
タンザニアの学校の様子を写真や動画で見てみる。

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇始めにバケツを乗せて歩いている女性を見た際は、「何してるの?」「首が痛そう」「記録に挑戦している」等の意見が出た。家に水を運んでいるところだと伝えると「なんで?」「お家の水がでないの?」といった疑問がでた。その後、実際に5リットルの水を運ぶ体験を行った。大半の生徒が「重い」「毎日大変だ」といった感想があった。一人の生徒が「水を頭に載せてみたい」と言ったことから、一人ひとりが体験することとなった。水汲みにいくために家事が大変になってしまう女性や、学校に行く時間に間に合うように早起きをしている子どもがいるという現状を伝えると、「早く水道ができればいい」「毎日ではできない」等の意見が聞かれた。実際に水を持ってみたことでその重さが実感でき、自分だったらどうかと考えることができていた。
- ◇カシューナッツの試食では、「スーパーで見たことある」「日本の食べ物だと思っていた」等の感想が聞かれた。食べ物を通じてタンザニアでつながっていることを実感しているようだった。
- ◇タンザニアの同年代の生徒を写真や動画を通して見ると、学校の様子や生徒の姿に歓声を上げていた。短髪や8月なのにセーターを着ていることに疑問を持つ生徒やタンザニアの学生が歌ってくれた日本の歌に感動して「歌を教えたい」ということを言う生徒がいた。

この時限のねらい

- ・タンザニアの人々の生活と生活に関して抱える問題について知り、体験する。
- ・タンザニアの同年代の生徒の様子を映像を通して知り、身近に感じる。

3 使用した教材

- <教材1>水入りのバケツ
<教材2>カシューナッツ、バオバブの実
<教材3>写真、動画

↓ 食べ物の紹介で使用した写真の一例



頭にバケツを乗せて歩いている女性の写真↓



1 子どもの活動の流れ

①ティンガティンガアートの鑑賞

ティンガティンガ村の様子を写真で見て、手で触れ特徴を考える。

② ティンガティンガアートに挑戦しよう

これまでのタンザニアの話をもとにティンガティンガアートを描く。色の授業と関連して背景・描く題材を考える。

2 子どもの活動の成果・反応

◇ティンガティンガアート鑑賞

ティンガティンガアートの鑑賞では「鮮やか」「動物がかっこいい」「派手」「おもしろい顔、形」等のたくさんの意見が出た。動物の色や背景も本当の色にとらわれることなく書かれていて、心情に合わせて書いているとか重ね塗りをしているため絵の表面がでこぼこである等の意見が出た。タンザニアの人々の様子を表現した絵を通して「水を運んでいる女性」や「木を運ぶ男性、木を燃やして料理をする女性」等タンザニアの人々の生活を振り返ることができた。

「白黒のキリンはきっと悲しいことがあったんだね」「背景の色にどんどん重ねて色を塗っているんだな」等の感想があった。

◇ティンガティンガアートに挑戦～題材の決定～

タンザニアの授業の中で心に残った事やティンガティンガアートを鑑賞して書いてみたい物を時間・場所や場面を踏まえてプリントにまとめた。高い建物がない場所に落ちる夕焼けをグラデーションで表したい、電気がないからよく見える夜の星空を書きたい、等それぞれの生徒が思い思いのタンザニアの姿を表現しようと下描きを行っていた。これまでに取り組んでいた色の学習と関連して、赤青黄白の四色だけを混ぜて様々な色を表現するというルールで取り組んだ。

◇ティンガティンガアートもグラデーションの技法を用いて描かれているものが多く、それらを参考に夕焼けや水辺等の背景に取り組んでいた。

3 使用した教材

<教材1>タンザニア民話とティンガティンガ～虹の七色どこからきたの?～

絵:アブダル A. ムクーラ 文:宇野 みどり 国際語学社

<教材2>ティンガティンガアートと絵はがきや写真

<教材3>写真



→人々の生活について描いた絵

←背景を夕焼け色のグラデーションにしようと色を工夫している生徒。



この時限のねらい

- ・タンザニアのアートであるティンガティンガアートを鑑賞し、その特徴や特色を考える。<鑑賞>
- ・これまで聞いたタンザニアの話や写真を見て感じたタンザニアの姿を絵に表現する。

1 子どもの活動の流れ

- ①自分の知っている国はどれくらい??
3分間で自分の知っている国名をできる限り書く。
- ②アフリカルタ
生徒の描いたティンガティンガアートを絵札に、絵にあった言葉を考えて読み札にし、かるた大会を行う。
- ③発表会
絵のテーマと描きたかった部分を発表する。

この時限のねらい

- ・自分の描いた絵の紹介やかるたを行いタンザニア学習のまとめをする。

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇今年度になって、新たに中国タンザニアの事を学習し、世界に目を向ける生徒が増えてきたことが分かる結果となった。中国や韓国等身近な国々とヨーロッパの国々やアメリカ等を書いている生徒が多かったが、バングラディッシュやネパール等これまでに学習で取り扱っていない国名を書いている生徒もいた。
- ◇他者の絵にも注目するためにかるたという方法をとったが、読み札に関連するような絵を良く見てとっていたり、全員が絵札をとれるように生徒同士が工夫していたりする場面が見られた。
読み札の言葉を聞いてタンザニア学習の復習となっているものや新たな発見がある生徒もいたようだ。
- ◇自分の描いた絵の紹介
声の大きさ、話す速さ等の発表態度に注意して行っていた。自分の感じたタンザニアの姿、ティンガティンガアートの工夫した点等の発表を行った。初めてカンガを着用する生徒は「かわいいからずっと着ていた」といった感想を述べていた。

3 使用した教材

- <教材1>アフリかるた
- <教材2>カンガ
- <教材3>発表カード

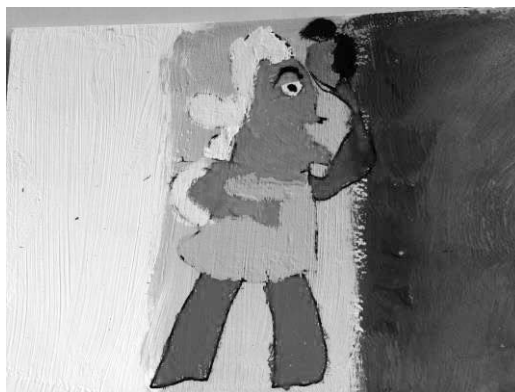
東アフリカの伝統布カンガを敷いて
アフリかるたに取り組む生徒たち



生徒の描いたマサイ族の親子↓



生徒の描いた水を運ぶ女性↓



ま
マジを運ぶタンザニアの女性
まいにちたいへんだ

同行者より

タンザニアのダルエスサラーム、ザンジバル、モロゴロ、と長大な距離を移動して訪ねた旅。町には資源国として経済成長を続ける活力が溢れていました。が、その一方で、モノ金目当ての犯罪が増加し、環境問題も発生し、という負の側面も学びました。そんな中で様々なプロジェクトに関わる日本人の専門家や協力隊員たちから、熱い想いと子どもたちに伝えたいものを、たくさんいただくこともできました。

特に今、ISILがメディア、世界を騒がし、イスラム教やイスラムの文化への偏見を招きかねない状況にあります。今回の研修で、ザンジバルのイスラム教徒の家庭にホームステイをし、その生活を垣間見ながら温かな交流を経験できたことは、特別の意味を持ちます。モロゴロで訪問したキラカラ高校では、「宗教の話はしない」というルールを持っていました。イスラム教徒とキリスト教徒が半々というタンザニア、社会でも学校でも、ルールに基づいた緩やかな共生をなし得ている。その姿を見、感じてきたことは、意義深いことだと思います。

JICA 横浜からのタンザニア研修が3年目となり、旅の前に過去の参加教員からの経験を踏まえたアドバイスを得ることができた事も、充実した旅のプログラムを可能にしました。

参加教員はそれぞれに世界に視野を開いた個性豊かなメンバーで、思いが交錯することもありましたが、良いチームワークが築かれていきました。普段は交流の少ない小、中、高、養護、と校種を超えた教員たちが、学校行事も忙しい中、週末の時間を使っての研修受講、情報交換や勉強会なども重ね、実践授業、その報告会へと、工夫を重ねた9カ月間でした。周囲の理解や協力があってこそ叶ったことだとも思います。

濃密な10日間の交流や視察、疲れながらも意見や感想を交わした振り返りの時間。旅そのものも得難い経験でしたが、事前事後の実践授業を考えていく過程もまた、教員の皆さんの糧となっていくものでした。体験し、感じてきたことを生徒たちへどう伝えるか。自分が見たものを子どもたち自身の学びを引き出すものへどう繋げていくか。試行錯誤がありました。これからの教員生活の中で、生徒に伝える財産を得られたことと思います。

そうしてたどり着いた実践授業。目の前の先生が行ってきたアフリカへと、生徒たちの興味や理解は確実に広がりました。

私にとっても、その様子を追従でき、学び多き時間となりました。貴重な時を共にした10名の教員の仲間たちと、JICA スタッフの皆さんに感謝します。

研修ファシリテーター

かながわ開発教育センター (K-DEC)

阿部 理恵子

教師海外研修のOB/OG会「Asante!」(※「アサンテ」とはスワヒリ語でありがとうの意味)が昨年度発足し、今年度は、多くのメンバーが講師として教師海外研修に関わっていただきました。

今年度の教師海外研修を支えていただいた関係者の皆さまに心から感謝を申し上げます。

同行者

JICA 横浜 市民参加協力課

田中 浩平

2014 年度教師海外研修報告書



独立行政法人国際協力機構
横浜国際センター（JICA 横浜）
市民参加協力課 教師海外研修担当

〒231-0001

横浜市中区新港 2-3-1

Tel:045-663-3220 Fax:045-663-3265

E-mail:jicayic-kaihatu@jica.go.jp

<http://www.jica.go.jp/yokohama/index.html>